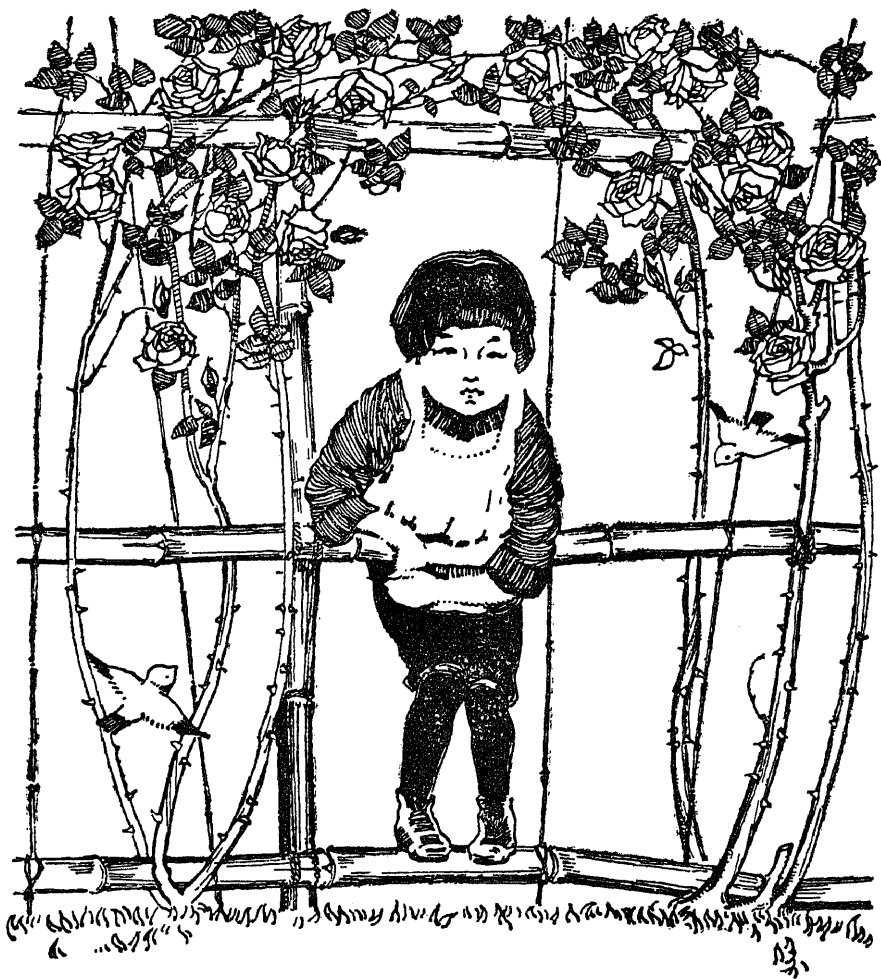


育教の兒幼

號一十第 號月一十 卷二十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

大日本體育ダンス研究會主幹
文部省全日本體育ダンス聯盟理事
東京府青山師範學校教官 澁井二夫先生創作

體育ダンス新教材

尋一用菊版洋裝美本
定價金壹圓 送料金六錢
|| 新刊 ||

内一 指導要領・教授案・術語解説・まゝごと・雨・走る小馬・さよなら・ぶらんこ・子猫・日曜日・小鳥の子守唄・
容般 山の羊の子・おはよう・ひよこ・糸切蟲・汽車・ダニツシユリール・フレンチメロデー・リットルダックス・子
供の汽車・シユーマー・カーダンス・ダンス・オブ・グリー・テング・リス・ダン・カー・クの鐘 (以下略)

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

子供 の 舞 踊

卷一・卷二 洋裝美本
定價各冊金六拾錢 送料各六錢

編纂 伯林ヅクマン舞踊專門學校卒業 印 牧 季 雄 氏
委員 全日本體育ダンス聯盟理事 全日本體育ダンス聯盟理事 澁 井 二 夫 氏
並 昭 和 保 姆 養 成 所 長 土 川 五 郎 氏
振 付 東京女子高等師範學校助教 三 浦 ヒ ロ 氏
全日本體育ダンス聯盟理事 東京府豐島師範學校訓導 宮 寺 嘉 一 氏

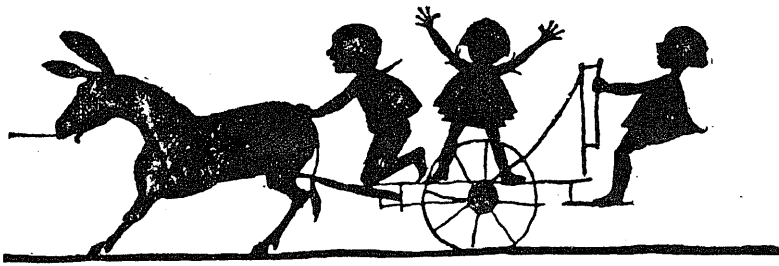
内一 容般 一般 春の卷・夏の卷・秋の卷・冬の卷
サ ン・人形ノ兵隊・小サナ遊ビ友達・雨ノヤム時・オ出デナサイ・オウマ・ナミ・ヒヨコ・ダルマサン・ウサギ・
オツキサマ・カケツコ・オヤスミ・フランコ・ナハトビ・ユキ・ピアノ・マメマキ・ギツコン・バツタン・オサル・
スナバホリマセウ・ワタシノオウチ・ヘイタイ・ヒカウキ・十五ヤ・汽車ノタビ・喜ビニミチテ・國民行進曲

エホンシヨウカ

春の卷・夏の卷・秋の卷・冬の卷
定價各冊卅五錢 送料各二錢

發 賣 所 東京市神田區三崎町一丁目一番地 音樂教育書出版協會

電話(38)代表四二六・四二八
九段(番號)四二七・四二九
振替東京六四七七〇



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 吉岡郷甫
主幹 倉橋惣三

東京女子高等師範學校長
東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ興ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
一、幼児教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 會務ヲ總理ス
主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス



第三十二卷 幼 兒 の 教 育 第十號

— (次 目) —

口 繪	うっかりしてゐる時(卷頭言)	倉橋惣三(一)
保姆の訓導	和 田 實(二)	
幼稚園の主任といふ事について	坂 内 ミ ツ(七)	
觀察のさせ方(三)	堀 七 藏(二)	
我國最初の幼児教育者 豊田英雄先生の米壽	氏 原 銀(一六)	
世界人形行脚記(六)	高 市 次 郎(二五)	
兒童遊園に欲しい植物	末 田 ま す(元)	
保育上保健増進に就きて	牛 島 隆 則(三)	
青蟲を中心としての幼児生活の誘導の實際	石 原 安 子(元)	
京阪二日(關西聯合保育會)	倉 橋 惣 三(四)	
初冬の保育衛生	廣 瀬 興(四)	
およばれの日(クリスマス遊び)	柴 田 み ぎ り(四)	
製作を中心とした保育	渡 部 き よ(五)	
十一月のぬりゑ	及 川 ふ み(五)	
花壇竝に花壇用草花年中行事十一月	富 本 光 郎(六)	
園藝曆(十一月)	大 岩 金(六)	
わたしのすきな旗	土 川 五 郎(六)	
雜報	(古)	

寫真さるんだよ
デッミしておるでよね、
あ、
そつほむいちやだめ。

幼稚園の庭の一すみで
生れた仔犬は、かうした
小さき愛撫のもきに、
まるく肥つて來ま
した





いま

おはなしを 聴いてきたばかり、

——三匹の小豚の——。

マサミさんは一番小さい豚にな
つて せつせきれんがの ouchi
を造つてゐます

幼 兒 の 教 育

昭和七年十一月一號

うつかりしてゐる時

その人の味はうつかりしてゐる時に出る。

うつかりしてゐる時に出る味がなくては、眞にその人のもち味とはいへない。

教育の一番ほんとうのところは、屢々、その人のもち味によつて行はれる。まして、相手が、謂はゞ、最もいい意味で始終うつかりしてゐる幼児達である場合、我々のうつかりしてゐる時が如何に教育的に大切なはたらきをなしてゐるかは考へらるゝ以上であらう。

うつかりいふ言葉、うつかりする動作、出あひがしらに、うつかりと見える顔。その時出る我々のもち味こそ……。

といつて、いぐらいゝもち味の人でも、うつかりばかりしてゐてはなるまいし、さてまた、わがもち味をつゝしまふとして、うつかりしてゐる時の全くないのも、つくろひに過ぎやうし、そこでこそ、幼児教育は六かしいものと、昔も今もいはれるのである。

保 姆 と 訓 導

目白幼稚園長 和田 實

普通教育と云ふ一つの仕事に従事する、一群の教育者は、皆一様の通念を持ち、一定の目的と一定の方針の下に、國家の需要に應じて、夫々次代の國民の養成に、従事す可き筈であるから、其教養の程度は、大體に於て、同様であり、其資格は無論、同一のものでなければならぬと思はれるのであるが、何事にも階級を付けねば氣の濟まぬ日本の爲政者は、此普通教育に従事する所謂訓導には、下級訓導と上級訓導とを區別して居る。然して、其下級訓導と幼稚園保姆との境界に於ても、嚴然たる區別を立て、訓導は保育を知らず、保姆は學校教育を知らぬもので、差支ないものとして、兩者の區別を明にし、其資格を異にして居る。保姆は果して、學校教育を知らずして、善いものだらうか。訓導は果して、幼児教育を知らずして、善いものだらうか。吾人は根本的に我國の師範教育に對して、此不滿を訴へたいと思ふものである。

法令の上から見ると、幼稚園の保姆は小學校訓導としての資格は全然ないのみならず、實質的にも、小學校教育を知らないものが多い。併し、訓導の方は無試験檢定に因つて、容易に保姆の免許狀を得ることが出来る様になつては居るが、其實質に於ては幼稚園の保育を知らぬと云ふ状態である。幼稚園と小學校との連絡問題を八釜しく云ふならば、此兩教育者の階級的區別をば、先づ徹去して掛らねばならぬと思はれる。即ち、吾人の考へる所では、訓導と保姆との區別を徹廢し、

一、訓導となるものは、當然、幼兒教育の方法に關する修養を充分に與ふること。

二、幼稚園の保姆たるものにも、訓導として修養を充分ならしむること。

三、法令上に於ける訓導と保姆との區別を廢し、兩者を全く同一の資格のものとすること。

の三つの改正を施したいと思ふのである。

教育上に感化誘導の必要なことは云ふ迄もないことで、今更、其必要を論ずるは、坊主に説法の類であらうが、實際的に見ると、學校の先生は存外、誘導教育を等閑にして居る。教授の徹底とか、教權の確立とか、口説、命令の威力を信仰して、何事も、説述、注入の方法で、萬事を簡単に片付け様とする傾きがある。従つて、廻りくどい誘導的方法で、効果を未來に期すると云ふ様な、手ぬるい方法など、面倒くさいと云ふ風である。教授は知能の上にこそ、其効果は著るしいが、其性情に及ぼす効果に於ては、確固不拔の習慣的効果や、深き興味に根ざす遊戲的効果には到底、及ぶ可くもないものであるから、學校教育に於ても、一方に於て、意識的に、統覺的に、其知能方面から、教育すると共に、他方には無意識的に、感化的に、習慣的に、其日常生活を誘導し、其遊戲的生活を案配して遣ることが、必要である。然るに、現在に於ける師範教育に於ては、此方面に於ける、修養を缺いて居る。殊に、尋常科正教員の修養に於て、大に其必要を感ずるにも係らず、全然、其修養を缺いて居る。是は現在に於ける師範教育改善の急務であると思ふのである。既に、法令上に於て、尋常科本科正教員には幼稚園の保育に對しては、單に、形式的に無試験檢定を願ひ出るだけで、保姆としての資格を與へるのであるから、實質的には尋正の免狀を附與する時に、保育の方法に關する相當の修養を要求して、然る可きであらうのに、實際は何等の試験を施して居ない。即ち、尋常科正教員は保育に關する何等の教養もなしに、保姆の資格を得ることが出来るのである。

是は甚だしき保育侮辱ではあるまいか。吾人は制度としては現在、尋正に無試験で、保姆の資格を與へることに、決して反對するものではない。寧ろ、制度としては、是は當然だと思ふが、同時に、尋正の修養上に、此制度に適ふ教養を要求したのである。或は「現在の法令を改正して、尋正資格者と雖も保育的修養のないものには保姆の無試験檢定を施

さぬ様に改めよ」と云ふものもあるが、吾人は制度としては現在の方が宜しい様に思ふし、進んでは尋正には當然、免狀を要求することなしに、保姆の資格を與へ可きであると思ふのであるが、其尋正の實質的資格の中には勿論、保育に關する修養をば充分に要求す可きであらうと思ふのである。或は云ふ人がある。保育専門の教養を要する。保姆としての特別の教育を受けることなしに保育者たらんとするは無理である。大學や中等學校に教育者たることが出來ても、小學校の教育者とはなれないと同様に、小學校の先生だからとて、幼稚園の先生には不都合である。是は全然別種の教育であるから、教育者としても別種の人を要する。と云ふ人があるが、吾人は其全部を是認することは出來ぬ。小學校の教育と幼稚園の教育の別種であることには異論はないが、此幼稚園の教育方法を小學校が取入れて其教育方法上に利用することには、決して反對す可きでなく、寧ろ小學校教育の悦ぶ可き進歩であるとしたならば、小學校の先生が實質的に幼稚園の保育法を修得することは、何等の不都合なきのみならず、大に悦ぶ可きことではあるまいか。従つて、小學校の先生が實質的にも形式的にも、幼稚園保育の資格を持つと云ふことは、教育者としては、非常な進歩であると思ふのである。吾人は一日も早く斯る時期の到來せんことを希望するものである。或は又、小學校の先生と幼稚園の保姆とは、全然、異つた教養を要する様に考へて居る人があるが、是は吾人には解せぬことである。訓導と保姆との修養の上に、何が特殊であらうか、心理學か、教育學か、常識的學術か、何が兩者を區別するのであらうか、吾人には解し兼ねる。恩物の取扱が幼稚園の特別であるから、保姆は特別の教養を要するとか、其は餘りに偏狹である。恩物とて、廣く考へれば、幼兒の一玩具に過ぎない。其玩具の取扱が保姆の専門的修養を要求するとは考へられない。其他の保育事項にしても、或程度迄は皆小學校の先生の知らねばならぬもので、決して、幼稚園の先生の専門として他人の侵入を許さぬ様な専門的性質はないのである。若し、必要ならば、幼稚園で實行して居る教育法は、全部小學校の教育に利用して、決して、差支ないものである。否、吾人は小學校の嚴格なる教授の間に、寧ろ、幼稚園の保育法の一部を取入れて、大に、誘導的教育を施す可き

であると考へるのである。従つて、將來の小學校訓導は、大に、保育法を研究して置く可きであると思ふのである。斯様にして、小學校の先生が幼稚園の保育法に通ずる様になれば、現在、法令に示される通り、小學校の正教員が其儘、無試験で保母の資格を得るとした所で何等不都合はないと思ふ。此意味に於て、吾人は現在の尋常小學校本科正教員の試験中に保育に關する科目を入れたいと思ふのである。若くば、教育學の中に保育法を統合す可きであると思ふのである。

次に、吾人は幼稚園の先生も、小學校教育に關する修養をして欲しいと思ふことである。保育は教育であつて、單に、子守ではない。積極的に施設を要し、教育を要する。一定の目的に向ひ、準備と誘導とを要する。次の教育の如何なるものであるか、誘導す可き前途は如何にと云ふことは保母の知らねばならぬことではあるまいか。是を知らないで、人の子を教育しやうと云ふことは、無理ではあるまいか。既に、法令に於ても保母の試験が、尋正の試験に準じて、行はれることになつて居る以上、保母が尋常小學校の仕事を知ることが、唯一歩半歩の進みに過ぎない。之を進んで知つて置くことゝ、退いて、關せず焉で過ぐすのと、其保育上に及ぼす誘導的效果は何んなであらうか、云はずと判ることではあるまいか。して見れば、將來保母とならうとする人は、受験に際して、單に、保母として受験するよりは、僅か一步のこと、進んで尋正の試験を受けて其上で保母の資格を得ることが、個人的にも得策ではあるまいか、斯様に於て、幼稚園の先生が小學校の仕事に理解ある様になれば小學校と幼稚園との連絡問題などは六ヶ敷い問題ではなくなると思ふ。斯る時が到來したならば、小學校の先生は何時でも保母になれば、幼稚園の先生も、何時でも、小學校の仕事が出来る様になり、従つて幼稚園の先生と小學校の先生とに、階級的區別を鮮明に付する必要がなく、即ち、訓導と保母との階級的に區別する必要はなくなると思ふ。吾人は訓導と保母との階級的區別の必要を認めない。將來、成る可く早く此區別を徹底して、兩者を同一の修養、同一の資格の下に統一したいと思ふものである。

人に因ると、保育は一種特別な教育で、一般教育者の浸入を許さぬものゝ様に考へて居る人があるが、吾人には考へら

れぬことである。吾人は寧ろ速かに、一般の教育者が幼稚園教育の方法、即ち誘導的教育の方法を其教授的方法の間に利用して、情意の方面より偉大なる感化誘導の實を擧げんことを望むものである。既に、自發活動に基く作爲教育、勤勞教育は教育の根本原則として、幼稚園が當初より遵奉して來た所の主義であるが、今日は小學校に於ても、此主義は盛に適用せられる様になつた。其他誘導的方法と雖も、漸次、一般の教育者に利用せらるゝことは當然であると思ふ。従つて幼稚園教育も、一般教育と融合統一せられてこそ、完全なる効果を擧ぐ可きで、決して、幼兒教育のみ特種がつて、獨り善がりす可きものではないと思ふのである。故に、幼稚園の先生は、一步を進めて、小學校の先生たる可き資格を持つ可きである。そして、一日も早く訓導と保姆との階級區別を徹廢す可きであると思ふのである。

幼稚園の主任といふ事について

坂 内 ミ ツ

一、主任とは何ぞや

我が國に於て幼稚園を創設されたのは明治九年で現在の東京女子高等師範學校に附設されたのである。爾來長足の進歩を見せ數に於ても實質に於ても大に見るべきものがある。然れども其多くは小學校又は高等女學校等の附屬である。殊に公立の幼稚園は其殆んどが附屬といつてもよいほどである。たま／＼獨立した建物を有して居る幼稚園に於て尙且つ園長は小學校長であつて實質に於ては全くの附屬である。かように進展して來た原因は何處にあるかと考へて見るに第一は創立が附屬であつたため、それに習つた事、第二は普及にあせり過ぎた爲、第三は經濟上の關係からである。現今は既に第一第二を考慮する必要がないのに尙新設される公立が殆んど附屬であるのは第三に依るもの

である事は何人も肯定さるゝ處である。こゝに於て主任の必要が生ずるのである。即ち園長は本校の仕事に忙はしく附屬の仕事はほんの附屬として主任に任せねばならぬので主任の必要は當然過ぎる事である。故に獨立して居る幼稚園では主任の必要は毫もなく園長自ら實務をとれば充分である。殊に幼稚園といへば僅かに四五人の職員であるのに園長の下に主任を置く必要はない筈である。然るに現在私立の幼稚園でさへも園長の下に主任を置くのはたゞ傳統によつて居るか或は有名無實の園長である事を物語つて居るのではあるまいか。

二、主任の任務

園長は名のみにして實際に關與せずとすれば主任の任務は且つ重大である。主任は自分の受持つ幼兒の責任を負う

のは勿論、全體の責任を負はねばならぬがしかし外面上の責任は負ひ得ないのである。而して事務も取らねばならず計劃も立てねばならぬのである。處が全力を盡して新計劃を立てゝも、それは一々園長の決裁を経ねばならぬのである。盲目印を捺して下さる方はまだよいとして一々詮議立てをされるばかりでなく頭から否決されたり或は優柔不斷裁決を與へず引づられたりすれば折角の熱も冷めてしまい眞剣にやる氣が失せてしまう。こんな状態が度重なれば計劃も立てず研究も薄らいで行くのは已を得ない事である。保護者に對しても困る事がある。幼兒の日常について或は入園入學等の事について相談を受けねばならぬのは主任である。懇談の必要を感じるのは擔任保姆や主任である。然るに父兄の内にも日常生活を見ず園長のみを信頼する人もあれば園長にのみ責任を負はせんとする人もある。日常の様子をば存じない園長は迷惑此上もない話であるが職務上答辯しないわけにも行かず、其御子さんには直接關係のない一般的の挨拶をさるゝか又は受賣である。熱誠のこもつた話の出来る筈がない。之を聞いて居らねばならぬ主任は

心苦しいものがあるのである。又毎日のやうに様子を見て居る母姉は只管に主任を信用して何もかも相談される人もある。こうした方には適切な懇談も出来るわけではあるが園長をないがしろにするやうでこれ亦心苦しいわけであるまいか。職員其他の人に對してもその通りである。園長が居らるゝのに一々命令を下すわけにも行かず皆へも園長の如くに考へぬのは當然の事である。以上の如くであるとすれば主任の仕事は自分で責任を負ひ得ず權利も與へられてない板ばさみの形である。幼稚園が進歩せぬとか研究心に乏しいとかいはれる原因は大にこゝに起因するのではあるまいか。はじめの意氣込は次第次第にうすらぎ優柔不斷事勿れ主義に移つてしまう。然らずんば研究心は苦しい心勞に化して其任に堪へなくなるわけである。

三、主任の必要なし

かういふ状態にある事既に久しき今日尙顧られないのは不思議であるが、女子の園長は數ふる程もなく視學其他の上司に一人として女子を採用されてないのであるから主任

の心理などわかつた人のないのは無理ならぬ事である。

せめて園長だけは、女子にさせて貰いたいものである。岡山市は何事にも先鞭をつけ文化の魁をされると聞いて居たが果して市立の園長は全部女子である。而して幼稚園と學校とが密接な連絡をとられ低學年教育に一大進路を開いて居らるゝのは暗夜に燈を得た心地である。其上小學校長職員及縣當局の方々が幼稚園に關係した事は何事でも一々園長や保姆に相談される敬虔な態度には敬服せざるを得ないのである。幼稚園教育は理論よりも實際が大切である。

他の學校に於てもそうであるが知識を授けるのが唯一の仕事である高等の學府とは自ら趣の異つて居るものがある事は認めて貰はねばならない。今日何々會社の重役として納まつて居る人も卒業當時は全く職工と同一の仕事をし寢食を共にして其内容實際を研究された、其頭と其經驗とがなければ劃策も命令もされるものでないと聞いて居る。物品を造るにさへ此誠意あるに、大切な人間の基礎教育を司る幼稚園に於ては實際を知らずして直ちに上司になり得るとは受取れぬ次第であると思ふ。實際に對して興味を持つて

居らるゝ男子、研究して居らるゝ理論家は少くないのではあるが、保姆は女子にしてといふ法令に背いてまで保姆の仕事をして居らるゝ男子は殆んどないのであるから、幼稚園教育にたずさはつて居る上司には保姆の仕事保姆の心理が解らぬといふも敢て過言ではないのである。事實斯の如しとすれば先決問題として園長に女子を採用して幼稚園の進歩を計るべきである。従つて主任といふ名稱は全く不要のものとなるのである。

經驗を重ねれば重ねるほど、實際を知れば知るほど疑問百出苦惱の絶間なきは幼稚園である。と一方には他の仕事では得られぬ楽しみを與へられるのが幼稚園實際家の受ける特典である。幼稚園に關係して實際に與らぬ程無意味なものはない。園長も實際を擔任すべきものであつて女子と雖も僅かに百人か二百人を收容する幼稚園の事務を掌り四五人の職員の統制がとれない筈がないと信ずるのである。

四、幼稚園の進歩

幼稚園を進歩させる方法はいろ／＼あるが先決問題の第

一は園長や視學を保姆の中より拔擢して主任を癡す事である。されどこれは言ふべくして行はれ難く當分は理想に留るに過ぎまい。しかし私達はたゞ理想として徒らに實現の日を待つて居るわけに行かない。先づ理想に到達する前提として主任となり園長となるに必要な指導機關、養成機關を設けていたゞき度いと希ふ者である。眞先きに現在の主任だけの講習會なり研究會なりを設けて主任の向上をはかり種々なる迷を解決していたゞき度いのである。文部省其他の講習を受ける度に其感を深くし其聲の大きくなるのを聞くのである。文部省では一般的に多くの保姆を考慮せねばならぬから園長や主任と狭い範圍に限定する事は不可能の事かも知れぬから日本幼稚園協會に御願ひして短期のものでもよいから講習會か研究會を開いて適切な指導をしていたゞき度いと希つて止まぬのである。そうして追々に養成機關を完備していたゞき度いものである。今や保姆養成機關は勃興して十二分に達したのであるから其上に經驗ある熱心家を集めて深く高く研究させる事は目下の急務である。現今叫ばれて居る保姆養成期間を二ケ年とする事は時

代に即した要求であるが之にも増して急を要するのは主任の向上をはかり主任の養成をする事である。一日も早く其聲の大きくなる事を希つて止まぬのである。

土川五郎氏還曆記念祝賀會

土川五郎氏が本年還曆に當らるに際し、幼兒教育界の諸氏の發起により十二月四日記念祝賀會を催され、祝賀晚餐會と共に、諸大家の童話、獨唱及び幼稚園兒による土川氏振附の遊戲の會が盛大に行はるゝ由、
(詳細本號廣告欄) まことに慶賀にたへない。

る。現今叫ばれて居る保姆養成期間を二ケ年とする事は時

觀察のさせ方 (三)

東京女子高等師範學
校附屬小學校主事

堀

七

藏

一

既に説明したやうに吾人の統覺作用には五つの階段がある。同じ繪を觀察してその結果行はれる統覺作用が發達の程度によつて異なる。第一が個物期で、幼稚園時代の幼兒から尋常小學校一年生にかけては専らこの個物期である。繪畫中の孤立した物又は人物のみを觀察し或は實際孤立しないものを、觀察の際分離して個々別々に統覺するものである。それが尋常小學校二年生から四學年にかけて兒童は人物の活動、事物の作用に着目し、多くの事柄の中から是等を選択して觀察するやうになるので、この時代を活動期といふ。更に十歳に達すれば事物の時間空間及び因果の關係に留意し、觀察物を總括的に把握せんとするもので、この時代を關係期といふのである。更に性質期情趣期と發達して大人の統覺作用が行はれるものである。

かく統覺が發達し發達の狀況によつて觀察する事項にも

亦觀察の仕方にも相異があるのであるから、幼兒に觀察をさせるに當つては十分考量せねばならぬ。この主要な點を上げると、大人の觀察を幼兒に強ひてはならぬ。情趣期にある大人の觀察と個物期、せいふ活動期にある幼兒の觀察とを同一に考へてはならぬことは無論である。大人の保姆には明白な觀念でも幼兒には著しく不明白であるのである。従つて大人に觀察の必要が全くなくとも、幼兒には十分觀察させねばならぬものが甚だ多いし大人には全く興味のない事物が幼兒にとつてこの上もなき興味を喚起するところが甚だ多いのである。

殊に幼兒には事々物々悉くがその觀念を明白になすため觀察の材料となるのであるから、「こんなものはつまらぬ」と保姆が輕視してはならぬ。

また保姆には明白な觀念でも幼兒には甚だ不明瞭な事物が多いのであるから、繪本を見せたり説明することを以て

實物の觀察の代用としてはならぬ。繪本を見て事物を統覺するときには必ず既に實物を觀察してあるか、又は既有の觀念から想像し類推し得るものでなくてはならぬ。例へば全く象を見たことのないものが象の繪を見たときと象を見たことのあるものが象の繪を見たときの統覺作用には著しい相異がある。繪の象を見ても象の鼻がどんなに動くか、どんな働をなすか、十分に想像出来るのは既に象を觀察し象の明白な觀念を有するものに限る。未だ曾つて一度も象を見たことのないものまた全く象の觀念を有しないものが象の繪を見るときは象の大きさも象の鼻の働も中々想像出来るものではない。象の鼻がどんな働をなすか、假りに大人から十分説明しても未だ一度も象を見たことのない幼兒には想像がつくものではない。また山間の幼兒や兒童で未だ一度も海を見たことのないものに、海には波が立ち、海ははてしなき位に廣いもので、水天の界が分らぬ、海の水は大變しほからいなどと説明しても、亦繪を見せても容易に海を想像出来るものではない。従つて小學校の理科でも幼稚園の觀察でも常に實物を必ず觀察させるやうにせねばならぬ。必ず實物の觀察を出發點とせねばならぬ。殊に

想像すべき觀念が明白を欠き貧弱である幼兒に對しては實物の代りに繪本を見せて觀察と考へてはならぬ。況んや教師が説明したり、教師が幼兒に代つて觀察したりして幼兒に觀察させたとなすことは甚だ不適當である。幼兒各自の感覺器官を十分働かせて觀察させてこそ眞に觀察させるものである。教師や保姆が幼兒に代つて觀察して、しかも幼兒に觀察させると誤解してはならぬ。また觀察のとき十分實物を觀察させずして教師保姆の有する觀念を幼兒に説明して觀察をさせたなどとなすは以つての他といはねばならぬ。ところがこのやうなことが今日保育項目中の觀察に於て多く行はれてゐるのは甚だ遺憾である。「かたつむりは軟體動物ですよ。身體が軟かいでせう。それから足がないけれども匍匐するものです。貝殻は左巻と右巻とあります」などと、教師や保姆が自分の知つてゐることを、單に説明してかたつむりの實物を本當に幼兒に觀察させないといふやうな似而非なる觀察が多く行はれるのは單に保姆の有する觀念を説明するにすぎないのである。かゝる似て非なる觀察ならば寧ろ行はせない方がよい。間違つたことを想像したり、死んだ知識を多く記憶したりしないだけでも

よいのである。

今日觀察と稱して自然物や人事上の事物を實際よく觀察させずして、單に小學校に於ける理科の知識などを説明するが如きことの多いのは誠に遺憾である。小學校の「理科」でも成るべく實物を觀察せしめ實驗せしめて眞に觀察し研究せしめるものであるが、幼稚園の「觀察」では事物の明白な觀念を得しめ、また感覺器官を練習し、觀察力を涵養するために實物を本當に觀察させねばならぬ。

二

話が一寸横道にそれるやうであるが、本年三月東京女子高等師範學校保育實習科の入學試験問題として「左の動物は何處で呼吸するか。(イ)ふな、(ロ)かひこ、(ハ)かへる(ホ)みみず、(ヘ)かめ」といふのを提出した。ところがその答案の中にも頗るふるつたものが多い。ふなは口で呼吸する。かへるは鼻で呼吸する、といふのはまだよい方である。かひこは呼吸するものと思はず、みみずはどこで呼吸するかわからないものが甚だ多い。中にはかめは心臓で呼吸する」とか「かめは甲羅で呼吸する」とかいふ如き奇答が平氣で書かれてゐる。成程自分も鼻で呼吸せず、口で呼

吸する位の人が多いのであるから、ふながどこで呼吸するか知らないのは當然である。ふなが口で水をのみ鰓孔から水を出すことは知つてゐても、それとふなが鰓で呼吸するといふ動物學の教授で學習したことは無關係であることが多いからである。動物の教授に於てふなは鰓呼吸をなすことは單なる死んだ知識として學習せられてゐるに止まるからである。またかへるは兩棲類であるといふ死んだ知識があつても、おたまじやくしのととき鰓で呼吸し、かへるになると肺で呼吸をなしてゐることが、眞に觀察し理解せられてゐないものが多い。また龜には甲があつてその中に頭や脚を引込めることは知つてゐるが、龜がどこで呼吸するか考へたこともなく、また教授もせられなかつたものが多いのである。しかしそれにしても龜が甲で呼吸するとか心臓で呼吸するとか考へるものには殆ど動物學の基礎觀念がないといはねばならぬ。人間の呼吸作用が心臓で行はれると誤解してゐる位であらう。また如何に龜の呼吸するところがわからなくとも甲で呼吸するとなすに至つては龜そのものゝ正しい觀念が全くないといはねばならぬ。要するにかゝる奇答を平氣でなすものが多いことは女學校の動

物でも植物でも本當に觀察させて正しい認識をなさしめ正しい觀念をつくることに大に欠けるところがあるものといはねばならぬ。そしていろいろ動物や植物などについて實物をはなれ、教師のもつてゐる觀念について説明したり動物植物等の教科書にある死んだ知識を單に記憶してゐるにすぎないものといはねばならぬ。中學校や女學校の生徒になれば今までにいろいろの事物を多く觀察し、それ等の觀念は不明白でも多くもつてゐる。しかし小學校の低學年兒童や幼稚園の幼兒になると自然物でも人工物でも多く觀察することが出來ず、それ等の觀念の數も少く、またその觀念内容も不明瞭な點が甚だ多いのである。それを教師がもつてゐる觀念を説明して觀察の代用したり繪を見せて満足するが如きことは眞の觀察ではない。また幼兒に實際觀察させずして教師が代つて觀察して、幼兒に觀察させたとなすが如きことも誠に誤つたことといはねばならぬ。觀察ではいふまでもなく幼兒各自をしてその感覺器官を働かして自然人工物等を十分觀察せしめ、事物を明白に認識せしめて事物の明白なる觀念を得しむると共に幼兒自身の感覺器官を練磨し事物を精密に觀察する能力を養ふやうに努力せ

ねばならぬ。幼稚園保育項目に於ける觀察は教師の理科的説明などを行つて時間を空費するが如きは決して眞の觀察ではない。またいろいろの理科的知識の説明をなして觀察させたものとなすが如きは以つての外といはねばならぬ。

三

幼兒各自の感覺器官を働かして幼兒各自が認識するやうに觀察させねばならぬ。そのためには觀察すべき事物が豊富に得られ、幼兒が十分その事物から刺激を受け、それに應じて各自の感覺器官を働かしてそれを眞に觀察するやうでなくてはならぬ。保姆の方で小さな實物をつさし上げて、「サアこれを御覽なさい。この脚は趾が五本ありますよ。こゝに眼があります。これが鼻の孔ですね。これが甲羅でせう。甲羅は堅いですね。それで頭でも尾でも脚でも甲の中に入れて身體を保護するのですよ。分りましたか。龜はね、歩くことが大變のろです。それで龜と兎と競争したことがあります。どちらが勝ちましたか。そうですね。龜が勝ちましたね。どうしてのろい龜が勝つたのでせうか。分りませんか。それは兎は油斷したでせう。けれども龜は油斷しませんでしたね。それだから龜は勝つたので

すよ。あなた方も油斷をしないけませんよ。油斷大敵といつてね。油斷をすると兎のやうにまけるのです。油斷をしないとのうい龜でも兎に勝ちますよ。よく覚えて置きなさい。誰さん「もしもし龜よ」を歌つて御覽なさい。……さうく大變お上手でしたね。今日はこれで龜の觀察を終ります」といふやうな觀察ならば、それは眞の觀察ではない。龜のお話であつて、幼兒に龜の觀察をさせたのではない。假りに龜一匹もつて來て全體の幼兒に差上げて觀せたとしてもそれは觀察ではない。成る程龜の實物を遙拜觀察をさせたのであるから單なるお話とは幾分か違ふ。また死んだ龜でなく生きた龜を遙拜でも觀せたのであるから、繪を見せたのとも幾分は違ふ。しかし幼兒が各自の感覺器官を十分使つて觀察したのではない。教師の手で頭や脚を動かしてゐる龜の實物を遙拜しただけで、龜のいろ／＼な形態や習性を十分觀察して幼兒自ら明白な觀念を收得したのとは雲泥の差がある。保育に於ける觀察では既に述べた如く、いろ／＼龜についての知識を收得させることが目的ではない。龜についての觀念的な知識を多く授けるよりも、龜についていろ／＼の事を幼兒自ら觀察することによつて

收得し、且ついろ／＼の事物を觀察する間に感覺器官の練習をなすことを目的となすのであるから、單なる遙拜的な觀察では物になつてゐない。龜の觀察に於ては成るべく龜を澤山用意していろ／＼龜について觀察させるやうにせねばならぬ。龜を澤山用意することが出来なくば止むを得ない。一匹の龜でもよい。之れを飼育して龜が水中を泳ぐ有様、石や土の上に出て甲を干してゐる有様、また床上を歩行させてどれ位の速さであるか、また驚いたとき頭や脚をどんなになすか等、實際に幼兒がいろ／＼に龜を觀察するやうにせねばならぬ。尤も龜を無理にいぢめたり、ふんだりするが如き殘酷な取扱をして幼兒が喜ぶが如きことは成るべくさけしめねばならぬ。けれども只大人が一匹の龜を幼兒に遙拜させるが如きことは眞の觀察ではない。それで茲に繰返していふ。幼兒の觀察は常に幼兒各自の五官を十分働かして十分に觀察せしむべきもので、教師や保姆が代つて觀察したり、大人のもつてゐる觀念につき單なる説明をなしたり、また繪本を以て説明してお茶を濁すべきものではない。必ず幼兒の五官を以て觀察させることが觀察の觀察たる本領である。

我國最初の幼兒教育者 豐田芙雄先生の米壽

氏 原 銀

我國最初の幼兒教育者豐田芙雄先生は本年米壽の八十八歳の高齡を重ねられ、此お祝の記念として先生の常により



(影近御の生先雄芙田豊)

置かれしお作歌の中より米壽の数の八十八首を集められ、之れを思ひ出ぐさと題する小冊子として賜りました。之れを見るに何れも結構なる玉吟にして先生の斯道に秀でられたるを感嘆いたします。

豊田先生は皆様も御承知ならん。我國幼稚園の、今より五十七年前の明治九年十一月、東京女子師範學校（現女高師の前身）附屬として創設せられし際、我國最初の保姆として、其創業時代に於ける種々の不便に耐え幾多の苦心を重ねられ其供給上を整へられて、今日幼稚園の基礎を立てられし、其御功績を尊とく仰ぎつゝ米壽の祝意を表し、此思ひ出ぐさの玉詠を有意義を以て皆様と共に拜讀すべく、こゝに申述ぶる事といたしました。左に

思ひ出ぐさ

緒言

不肖英雄今年八十八の馬齢を算へまして辛くもうこめいて居りますが唯々人様の御厄介になる計りでほんたうにお氣の毒に思つて居ります。それにも拘はらず大方の皆様からいろいろ御心をそゝがれ世に謂ふ米壽てふことをお祝ひ下さいまして何と御禮の言葉も御座いませむ。就きましては何か感謝の意を表したく存じましたがよき思ひつきもなきものから常に詠み置きたる腰折れ歌を積みたる歳の數ほどあつめてそを記念の小冊子となして知己の方々に參らせ御一笑に供せんと思ひつきました。さはあれ極めて拙くふつつにて且つ咄嗟の思ひつきとて耻かゝやかしう考へますが如何にせむ何事もいたらぬ老の身のなせるわざなれば其點見逃がし賜はりて御遑の折に一讀の榮を賜はらば本意之に優りたる事なしと存じます。

こゝしさもしらてこえ來ぬ米の山

昭代のめぐみの杖にひかれて

時に昭和七年冬十月

田見小路寓居に在りて

從七位勳六等豐田英雄しるす

米壽記念 思ひ出ぐさ

春之部

新年の雪

あら玉の年ほき人のさして行くかさおもけにもつもるしら雪

新年會友

へたでなく老も若きもあら玉の年をことほくけふのうれしさ

春草

里人にふまれながらも生ひ出てて春にそむかぬ野邊のわかくさ

暮梅

人は家に鳥はねくらに入りし後にをしくもかをる野邊の

梅か香

汽車観梅

梅の花また見ぬさきにかをるなり小汽車のまとい風のお
くりて

夏之部

野百合

草刈もからてのこしゝ野つかさにかをりはなちて白百合
のさく

田植

早苗草ふしはたつらむ田ひとらはや植えわたせ雨はふ
るとも

水郷螢

里川にうつるもをかし青やきにすかるほたるの影もゆら
きて

河骨

千波沼ぬなはとらむとさをさせはまつ目にとまる河ほね
のはな

蓮

月夜にはこかねの玉と見ゆるかな蓮のうき葉につゆのま
ろひて

都時鳥

宮ひとも今のひとこを聞きつらむちよ田の森の初ほとゝ
きす

茶摘み

木の芽つむ時來にけりと里の女かあしたゆふへに行きき
賑ふ

夏田家

夕立のはるゝを待ちて小山田のひえ草ぬかむ茂りあへぬ
まに

山家忘夏

手にむすぶ清水はきよし風すゝし山にのかれしかひそあ
りける

泉忘夏

湧きいつる岩かね清水むすひつゝやすらひ居れば夏なか
りけり

雷 響

夕立のはれたる後もかみなりてひかるもすこき星つく夜
かな

夏 山 家

せみのこゑ松ふく風もきくなれてさひしともなき山のし
た庵

夏 休

涼しさのいつこはあれと夏休みまつふるさとの山にあそ
はむ

夏 窓

青葉ふく風をすゝしみ窓によりて歌おもひつゝしはしま
とろむ

秋之部

蛸

をか越の木の下かけにやすらへは秋つけ顔にひくらし
なく

新 月

山の端の木すゑはなれて三日月のかけのほのめく夕へさ
ひしも

雲 間 月

雲間もる月こそものを思はすれ世のわひ人にあらぬ身に
さへ

撰 虫

古しへのためしはおきて我宿にふさはしけなる草ひはり
なく

二百十日

しなとへの神なあらひそ秋の田のをしねは今そ花さかり
なる

薄 露

糸すゝきわきそふ露をちらしつゝさひしさまねくあきの
夕暮

上 弦 月

夕月夜ひかりはいまた添はねとも秋のあはれはこれより
そしる

秋 江 釣 魚

ひ沼うら廣えのなみにつきてりてぼらつる鱖のさをゆら
く見ゆ

秋 虫

うなわ子か軒につるしゝ籠の中をおり殿にしてはたおり
のなく

冬之部

霜 夜 月

かけさへもこぼる心地すおき渡す霜にきらめく冬の夜の
月

初 冬 旅

旅衣かさぬるまでに寒きかなやまかせすさむふゆの初そ
ら

山 家 初 冬

聞きなれしみねの松風音かへて木からしすさむ冬はきに
けり

落 葉 埋 路

朝夕にかよひなれたる小みちすらふみまよふまで落葉ち
りしく

雑之部

文 書

かなめともなるへきふみの巻々は心してこそよむへかり
けれ

かすおほく書をよむとも何かせむたゝしき人のみちを踏
ますは

歐洲 戦 亂

まかつ神如何にあらふる三年越西のくにはらいくささけ
ひの

國 體

天地のひらけはしめしかみよゝりもとゐたゝしき我が大
やしま

滿 糸

まゆこもるくはこの虫のはく糸の御國のいとをひきいた
しける

紙

むら肝のこゝろをうつす紙なくはおもふことゝ何にし
るさむ

紙ならは漉きかへさむを人こゝろ薄くなり行く世を如何
にせむ

古 書

これなくはなにと昔をたとらなむたうとかりけり古きふみまき

鈴

たまちはふ神の御まへに鈴ふりて祈るは御代のみさかえにして

乳 母

はゝそはの母の代りてはくゝめるちこの乳母はゆるかせにすな

蚊 帳

幼な子の眠れるさまを蚊やこしにみまもりつゝも母は衣ぬふ

木の冬三つ

三輪の山しるしの杉かしめはえてきりのまよひに見えかくれする

杖

鳩の杖つくもつかぬもさもあらはあれ我身いたくも老いにしものを

釣 鐘

つき出す鐘をかそへて老か身はねさめの友とまつ聞きにけり

力

集むれはいかに重きもさゝくらむ力あはせてはけめもろ人

太 刀

武士のとりはく太刀のつかの間もみかけやみかけやまとたましひ

寄水述懐

谷川のほそきなかれもうみに入るかくしもあらん人のゆくすゑ

嬉しきもの

うれしさのいつれはあれと悲なくうま子生れてうたけする時

蜻 蛉

日の本のかたちにと似るとこの虫にあきつてふ名を命せそめけむ

題 し ら す

ちりひちも積れは山となりぬへし僅かなりとてゆるかせ
にすな

山 家 夢

山住みはうき世はなれし心地して夜な／＼結ふゆめもの
とけし

名 所 松

唐崎の松もいのちにかきりあれやをしくも枯れて名のみ
残れる

蟻

日ねもすにやすらひもせて餌をはこふありの心に我はな
らなむ

遊 女

川竹にまかする身にも人なみにをしへの庭にかよふ御代
かな

平 政 子

かちえたる鏡のゆめに行く末をてらし／＼君のこゝろさか
しも

憐れなるもの

あはれさの何れはあれとたらちねの母にわかれしをさな
子にして

治世文事興

治まる御代のさかえのかしこさよ文のはやしは日々にし
けりて

桐 樹

庭にうるし桐は早くも立ちのひぬ箱にやきらむ火桶にや
せむ

木 の 名 四

みねの松ふもとの杉生きりこめてせとの板に鵲かねそす
る

題 し ら す

をさな子に昔はなしを聞かさむにまつくすの木の君をか
たれり

電 話 機

言の葉も色もさたかに聞ゆれとすかた見えぬか物足らす
して

西行法師

みちのへに流るゝ清水音きよく柳のかけは今もしたはし

風呂敷

しら玉も眞玉もともに風呂しきに包みおくこそゆかしかりけれ

白さき

白鷺かみの毛かつきて池の邊に立てるすかたの繪に似たる哉

銅像

つくしたるいさをもたかく仰くなその名とゝものにのくる銅像

忠

玉はあれとこかねはあれと尊ときはふたころなき大和たましい

平重盛

君につくし親を思へち真心はのちの世までのかゝみなりけり

何の折にか

ぬさととりて常磐の神にいのるかな我かしきしまの道のさ

かえを

涙

なみた川よとみなければうき人のうきてふたねは流し果つへし

寶

數おほき學ひのわさにぬけいてし人こそ國のたからなりけれ

玉

みかゝすは玉も光りのそはすして石にかわらにひとしかるらむ

夕ぐれ

夕からすねくともとめて城山にかへる親子を誰れかわくへき

題しらす

世のさまは移り行くとも國を思ふ臣のまことははらさらなむ

交友

此君のすくなるふしをこゝろにてともをえらひてまはし
れよ人

一徳會の講話をきく

人皆のこゝろひとつにくにの爲めまことつくせと説くか
嬉しさ

名 所 瀧

三吉野のよし野の瀧のしら糸ははなのさく頃人のよら
む

社 頭 風

草も木もなひきふしたる大御代の風なほきよき神のひろ
まへ

篠田翁の喜壽の賀に寄神祇祝をよめる

天地のかみの御たまのさきはひておきな榮えかきりし
られす

故文女學校を詠める

まなひやの庭にしけれるひめ松の千歳の色の見ゆるうれ
しさ

大正五年二月松原神社新たに造營なりたるとき
奉納の歌請はれけるによめる

つくは山は山のかけにはたあけてつくしましぬるむかし
忍はゆ

今もなほ襟元さむく身にそしむみこしの松の雪のしつれ
は

一たひはいすかのはしと思ひしにとひ立つほとこの今のう
れしさ

いさをしも今あらはれて松原の宮居あらたになりける
かな

大御代の千代のさかえは松原のかみも守りておはします
らむ

新宮にしつまりましたまもりませその松原のときはかき
はに

治まれる御代となりてそ松原のまつふく風のおとののと
けさ

世界人形行脚記(六)

—世界教育大會より歸りて—

フレイベル館社長 高 市 次 郎

▽巴里からジュネーブへ△

汽車は九月の五日午前十一時、巴里を後に、瑞西のジュネーブへと志す私たちを乗せて、ブルゴーニュのあたりを驀地に走つてゐます。圓い柔かな輪廓の丘陵が重り連續

して遙に車窓を訪れる。南方佛蘭西の獨特の色あざやかな緑の芝地が、高原地帯に入るこのあたりを緩かに蜿蜒ながら遠く展けて、餘念なく群れ遊ぶ放牧の羊や牛が列車の窓に送り迎へられる。森林のかなたには某の寺院の尖塔が隠見し、赤い家根や青い家根の住宅が緑の林を點綴してみせて、恰も自然の一大公園であり、印象派の田園畫家によつてものされたりアリスチックな一大畫圖であります。

ローヌ河の上流を渡つてからはジュラ山脈、アルプスの

山系がゆく手に展開して、漸く肌さむさを感じてくる。

ジュネーブについたのは午後七時半、時は九月のはじめとは云へ、そゞろに十月なかば過ぎを想はせる冷氣であります。

いま、で、人形行脚の歐洲に於ける旅の徒然を慰められた到る所の山々——それこそ、蒲團を着て寝たやうな輪廓の柔かい圓い丘陵は、瑞西に來て全くその山容を一變して巍峨として迫るが如く、千古の白雲に碧空を劃り、又の如く天を摩して、屹立して我が日本の如く嵯峨たる山容が雄偉壯嚴な趣をみせてゐます。なかにもユングフラウの麗容、突兀として屹立する標高四千八百十メートルといふアルプスの盟主モンブランの勇姿は、鏡の如きレマン湖と

湖畔をめぐつて竝ぶ白亜の建築、濃かな緑樹と互に相照映して、國際都市ジュネーブを美しく飾つて觀せてゐます。

國際聯盟事務局は湖畔にのぞみ波靜かな湖上にその影をうつしてゐる。併し、二千萬圓の巨費を以て、新に、總會議事堂理事會議室、圖書館、事務局等の一大殿堂を湖畔の小丘上に建築中であります。

私たちは湖畔の美しいホテルに五日から六日に亘つて寛いだのです。

顧ふに、米國からのみちすがら、さすがに風光明媚を謳

はれてゐるゼネヴ湖畔だけに、一番美しかつた所ではあります、その幽邃にして明媚な麗はしい自然美は

到底我が箱根の蘆の湖に及ばざるを思はずにはゐられませぬ。



瑞西の木彫り人形

木地をみせたまつた溶きの顔料で淡く彩色し透明な樹脂性塗料をその上につけて、その美しき歌の情緒を表現する。藝術品のあつた。

此の町の

アリアナ

と

いふ人の寄

附になつた

といふ美術

館には、我

が東京の品

川の某寺か

ら贈られた

といふ石塔

籠が、先づ

私にはなつ

かしいもの

に觀られました。聞けば品川のその某寺の吊鐘が、失はれてから年久しくして、此のジュネーブのサン・ピエール寺

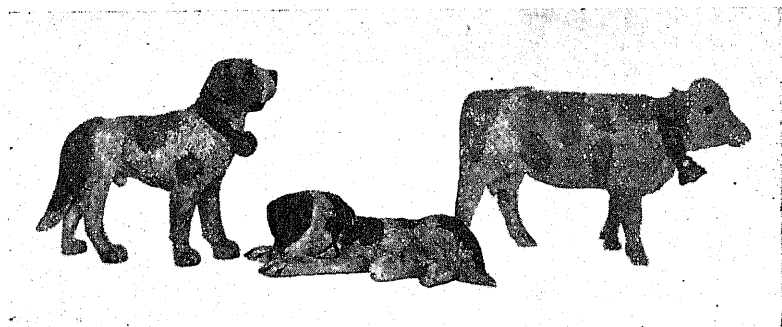
スミス寺やローンつゞきの露の森
朝霧に尖塔かすむ湖畔かな

▽瑞西の木彫と時計△

ジュネーブの特産は先づ木彫人形や世界的に有名な時計であります。

アルプス登山者や、此の地方獨特な素
 朴な百姓姿の人物や動物などを題材とし
 た刀のあとと麗しいもので、何れもお土
 産品として多く賣られてゐます。

瑞西の時計の街ベルンと云はれてゐるもの、その製造所は主としてこのゼネヴ湖畔にあります。明日はジュネーブをベルンに向つて發たうとするので、豫て時



瑞西の木彫動物

に地芝の緑いる明の間山は右。すまゐてし彩賦く淡で料類な明透を彫木の此
もれ何、で犬ドーナーバ聖もつ二は左、牛たけつに首を鈴るゐてれき牧放
おに所る到の府壽は彫木の種の此。すまゐでん込嵌をのものうや玉京南に眼
。すまゐてつ賣てしと品産土

計を買はうと思つてゐたが、一般に歐米の街は午後六時或は七時以後は店舗を締めるので、遂にその暇なく、よつてクツク社の好意により、一流の時計製造所主、Alfred Hof 氏の私邸を訪ねて御主人に面會。宏壯な邸宅の主人としてのホッフ氏は又實に立派な紳士である。こゝで同氏の趣味としての時計の聚集を見せてもらひました。その聚集されたる數は實に驚くばかり、日本の古代の製作に係るゼンマイ仕掛、齒車全部を手製にした木箱型の時計を見せてながら、主人は莞爾として

「お國でも昔からやつてゐますよ」といふ。買はうと思ふ時計は何れも最低百圓以上のもので、懷中時計中最も高級に屬するといふ。

▽首都ベルン△

ジュネーブから、ベルンに到る間も、また忘れがたい車窓の美しい眺めであります。午前七時、ジュネーブを發つた汽車は、ローザンヌを経て、左にジュラ山脈を、右にアルプスの秀峯を指呼しつゝ盆地を北に走つてゐます。

模糊としてゼネヴ湖畔の朝さむし

ロザンヌやアルプスの山巍峨として

朝さむみふるさと偲ぶモンブラン

といふうちに汽車は遠慮なく走つて、二時間半にして、瑞西の中央にして首都のベルン著。

アルプス河の上流、ハール河によつて構成された砂洲上アールの流れが可なりの急角度を以てカーブする所に建てられた町で、南の方にアルプス山脈の有名な諸峯が竝んで美しい。フィンスター・アルホルン、ユングフラウ、シュ

レツクホルン、メンシエ、アイガー、ヴェツターホルス等の群峯が聳立して雲を呼んでゐます。

私たちは國會議事堂や、時計の塔等を見物して、鑓て矢田大使のお招きにあづかつた。お献立は牛肉のすき焼！そゞろ日本に歸つた心地がして、そのうまさ！

こゝから、私たちは伊太利のミラノへ抜けて遍路をつゞける。これは所謂、アルプスの横斷鐵道によらねばならぬ。ベルンからカンデル谷を溯つて、あの有名なシンプロン隧道の西に、マギヨール Maggior 湖に沿ふて、電氣機關車に索引されて走る。島あり、美しい素樸な住宅がありその眺めも誠に捨て難いものであります。

×

×

×

×

兒童遊園に欲しい植物

日比谷公園 末田 ます

子供といふものは何でも知りたがり、きいたがり又さわ

りたがるものである。動物も植物も鑛物も美術品も機械も、目に觸れるものゝ、あらゆる總てについて少しでも多く知らねば氣がすまない様である。此點大人の専門的の仕事にのみ汲々として少しの餘裕もない有様は聊か恥かしい氣がする。此旺盛な智識慾を十分満足せしめるために兒童

遊園などには餘地のめる限り出来るだけ爲になる様なものを用意して——經費の關係もあるが許される範圍内に於てそれ相當のものを植えて——知らずくの中にその名稱とか用途とか性狀などを覚え込ませておくといふ事は自然に對する趣味的情操教育上からも又小學校なり中等學校なりの教授課程に於いての基礎となり補助となるのである。又そこで接するものゝ中から特に自分の興味あるものを見出し將來專攻すべき部門を無意識の中にきめるよすがとなる

こともあらうと思はれる。

俗に子供は風の子といふ。然し本來は土の子と云ふべきであらう。土こそ我々の本當になつかしい父であり母でありふるさとである。我々はその故郷にたちかへり、土の香りに親しむことによつて、最も純な本來の自分を顧みることが出来る。

兒童遊園内には運動器具は別として前にも述べた様にとの設備を望ましいのであるが、夫等は暫くおき先づこの土にしたしませる意味に於て自然の環境に十分接せしめる爲に子供の親しみ易い覚え易い様な又將來の參考ともなる各種の樹木や草花を是非植付けておき度いものである。

東京市の各公園兒童遊園にも單に日蔭用として、柳、梧桐、銀杏、プラタナス等の樹木を、一、二種植えてあるのみで未だ此計畫が實行せられてゐないが、樹木は經費等の

關係上直ぐには各種のものを採て揃へられないとしても、草花などは子供自身の手によつて小さい花壇を造り少し宛

本誌七月號のルート・ヴァイランド博士の文中にも子供を園藝に親しませるといふ事は色々の意味に於て最も必要な保育の一つとして力説せられてゐる様である。

でも植えたり手入させたりしたいものだと思つてゐる。日比谷公園

幼稚園の恩人フレーベルは幼少の時身體虛弱のため父なる牧師は毎朝彼をつれて植木の手入をされたので健康になつたと云ふ逸話がある。

兒童遊園内にも數年前よりくす藤の廻りにチユリツプを植え周圍に

さてその用ふべき植物であるが是非次に擧げた様な何かのいはれあるものを選ぶのが一番興味深くもあり又最も効果的と思はれる。

波竹をして注意を子供にさせた事を初めとし後四坪位の花壇を設けて春はチユリツプ秋は

我日本の國華として櫻と菊がある様に世界各國にもそれ〴〵國華が制定せられてゐる。英國に於けるバラ、佛國のアイリス等といふ風に各國に於て歴史的意義を持つもの、或は一般の嗜

ツレニア(夏スミレ)

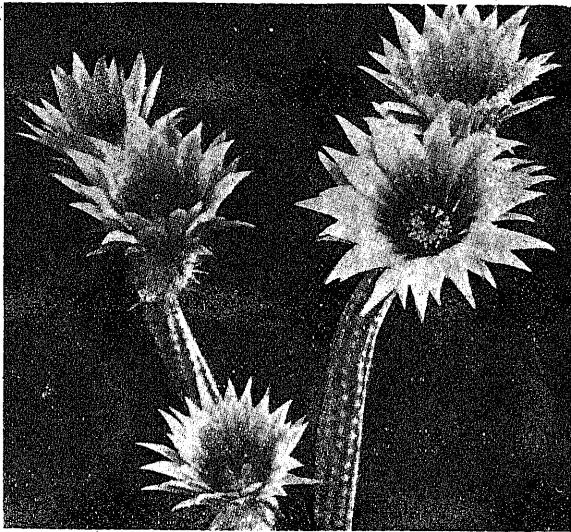
及サルビア等を試みて

一年毎に興味をそゝる

様になり本夏などは官

舎に住む子供等は各自朝顔を自宅に植えてそれ〴〵成功し

た事を非常に喜で居ります。



メキシコの國華 サボテン

各國の國華

我日本の國華として櫻と菊がある様に世界各國にもそれ〴〵國華が制定せられてゐる。英國に於けるバラ、佛國のアイリス等といふ風に各國に於て歴史的意義を持つもの、或は一般の嗜

我國華や、各國に渡らなくとも代表的な國のものだけでも是非揃へて説明の札をつけておき度いものである。

主なる國華及其の簡単な性狀、植付時期等は次の様なものである。

古クハ牡丹ヲ用ヒタレド一九二九年國民政府選定發表

保育上保健増進に就きて

京都市永觀堂幼稚園 牛 島 隆 則

十月十七日京都市に於て、開催せらるゝ關西保育大會の折、大阪市保育會提出の問題に對し、京都市保育會より永觀堂幼稚園へ答辭を要求せられたる處、本園は日淺き關係上、他の幼稚園にて處理方申出て斷りたるも、是非共引き受けよとの事情の許に、未熟を顧みず起案せし者なれば其旨茲に附記致し置きたる次第なり。

大阪市保育會提出問題

保育上保健増進に就きて最も効果ありと認めらるゝ事項特に都市幼稚園に於て夏期休暇中の保育と其施設を承りたし。

其一、保育上保健増進に就きて最も

効果ありと認めらるゝ事項

幼兒の健康を増進するためには、體育方面と衛生並に精神方面と相待て、幼稚園の環境と設備に應じ、各々適切な手段と方法を講究せざる可らず。

茲には調査の結果、遺憾ながら主として、永觀堂幼稚園の環境と設備に應じ、同園の今日まで實施し來れる方法中の効果ありと認めたる事項を簡單に列記せんとす。

甲、體育方面

一、室外保育の勵行

例へば幼兒の在園時間を五時間とすれば、普通室内保育に約一時間（朝禮、晝食お歸りの式等、雨天等の場合は此の限りにあらず）残り約四時間を室外保育に充當するが如し。

二、室外保育の重なる事項

（イ） 毎朝東運動場にてラヂオ體操終て南運動場の

小丘登り、砂遊び、ブランコ、駢足競争、縄引競争、バスケツトボール、小川及プール水遊び、大積木遊び、手技（粘土）遊戲、談話、觀察、唱歌等。

（ロ） 永觀堂本山境内の利用

自然の遊び場として、境内にある石段の昇降運動、本山裏の山登り、本山裏の山の椎拾ひ（季節のみ）、放生池の周圍廻り等。

（ハ） 東山登り

若王子より南禪寺に亘る東山登り、其時間約二時間を要す。

乙、衛生方面

（イ） 齒の検査並治療

齒科顧問の検査を受け「カード」に結果記入し、半片を保護者に通知し、府立病院に於て、所要の治療を施す。

（ロ） 齒衛生に關するお話及活動映畫

（ハ） 食後含嗽場に於て含嗽の勵行

（ニ） 身體検査

毎學期の初めに園醫にて身體検査を行ふ。

毎月體重を測定す。

夏期林間中は初めと終りに體重を測定し、特に初めには身體一般の検査を行ふ。

虛弱園児に對しては、保健顧問時々診察を行ふ。

（ホ） 身體各部清潔の勵行

毎月曜日に爪、口中及齒の検査。

食事前先の洗淨に注意し、殊に外出より歸宅の際は必ず口中、顔、手を充分に洗ふこと。

（ハ） 太陽燈の利用

保健顧問指導の許に、凍傷の豫防、其他の輕き病症に應用し來れり、何れ其効果の如何は發表の時機あらん。

丙、精神方面

（イ） 常に精神の緊張を保持することに注意し、毎朝講堂に於て君カ代合唱、御眞影に對し最敬禮、尤も嚴肅に朝禮を行ひ、時々教育勅語を捧讀す。

（ロ） 毎月二回以上、禪林寺派管長より頂戴せる珠數

を携へ、本山に参詣し、同管長の讀經並に有益なるお話を拜聽す。

以上の如き保育を實施し來れる結果、保護者より常に感謝を以て迎へられつゝあり、其著しき二、三の實例を擧ぐれば、

(一) 獨りで歩行困難なるため、毎日大學病院にて治療を受けつゝめりし六才の幼兒(女)が昨年八月一日林間學園の折入園し、同月十三日の修了式には、早や自由に行し得る程度に至り、目下健康狀態となれり、大學病院の治療は入園當日より之を中止せりと云ふ。

(二) 冬期には毎年常習的に風邪のため、醫師の絶へ間なき幼兒が、昨年九月入園以來今日まで、一度も風邪にかゝらぬ様になれり。

(三) 虛弱兒にして醫師も、殆んど策の施し様もなかりし幼兒が、昨年九月入園以來、食慾の増進と共に、血色と肉付共に良くなり、健康體となれり。

(四) 食慾進まず、常時胃腸を害し、不健康勝ちなりしお子達が、入園後日ならず食慾は増進し、胃腸は健全

となり、健康體となれり。

(五) 入園後日ならず、不思議にも、便通が規則的になりたと父兄よりの申出。

(六) 入園前は醫師にかゝらざる月なかりしも、入園後は日ならず血色よく、丈夫になり、風邪にかゝり發熱しても、容易に回復する様になれり。

(七) 東京市小石川在住の、獨り子の虛弱兒(男)が昨年四月母親同伴態々本園に入園したる處、申分なき健康體となり、本年四月東京小石川竹早師範附屬小學校に首席にて入校し、目下優秀の成績を擧げつゝある趣なり。

(八) 獨り子で虛弱兒の在園者の比較的に多いが、何れも日に増し食慾の増進と共に、元氣を増し健康體となり、保護者は非常な満足である。

(九) 従來齒科醫の治療を嫌ふ習慣ある幼兒が齒の検査の結果、幼稚園より引率して府立病院に治療を受けて以來、喜んで治療を受ける様になり、近來一般に保護者も幼兒も、よく齒に注意する様になれり。

其二、都市幼稚園に於て夏期休暇中

の保育と其施設

永觀堂幼稚園に於て、園兒を中心とし、市内小學校幼學年生參加の許に、昨年夏期より林間學園を開催し、本年も七月二十三日より八月十三日に至る間、毎日午後四時までに小學兒童及園兒約二百八十名の共同生活を營みたる實況の概要を左に略述せんとす。(詳細は「楓園」第二號参照)

一、毎日日課の概要

- (イ) 午前九時までは自由遊戲
 - (ロ) 午前九時運動場に於て、全員君カ代合唱の許に朝禮を行ひ、終てラヂオ體操
 - (ハ) 小學校兒童は林間に設備せる教場にて、先生監督の許に、朝の間の復習及自習等、園兒は平常の通り(前章参照)
 - (ニ) 午前十一時四十分晝食
- 園兒は平常の通り娛樂室にて行ふ
小學校兒童は林間教場に於て行ふ
食事に當り園長並主任指導の許に

「箸とらは天地御代の御恵み

父母や師匠の恩を味へ」

の歌を合唱の上、一齊に箸を取る、最後に一同感謝の詞を唱へて食事を終る

- (ホ) 午後は小學兒童も園兒と共に、プール、小川の水遊び、其他の自由遊戲

- (ヘ) 午後三時間食

保健顧問監督の許に、芋、ビスケット、エリー、ばん、鹽せんべい、牛乳等を給す

- (ト) 午後四時運動場に全員集合、お歸りの式を行ひ自動車通園者は、所定の場所に至り監督先生指導の許に、點檢の後、乗車歸途に就く。

二、以上日課の外林間中に實施したる重なる事項

- (イ) 東山登り
- (ロ) 林間中の兒童並園兒生活狀態の活動撮影
- (ハ) 平安神宮參詣
- (ニ) 動物園見學
- (ホ) 八月七日七夕祭(保護者集合)の催し

(ハ) 七月三十日明治天皇祭を舉行し、本山に參詣し
管長の讀經並大帝に關するお話

(ト) 茶話會

(チ) 學藝會

(リ) 林間中の成績展覽會

(ヌ) 活動映畫會 (林間中の生活狀態の映畫並爆彈三

勇士等)

(ル) 童話

三、通園用自動車の利用

本園の通園區域は京都市の大部分に亘れるを以て、昨年四月より通園用自動車の途を開き、目下七臺を使用し、約百名の送迎を實行しつゝあり、本年の夏期林間には十二臺を使用し約百六十名の送迎を行ひたり、今日まで自動車通園に關し何等故障なく經過し來れり。

本年の夏期は特に暑氣甚しかりしに拘らず、兒童及園兒は毎日午前四時まで、長き時間の立つのも忘れ、伸びぐとして毫も疲勞の氣色なく、元氣に毎日殆んど缺席者なく何等の故障も起らず經過する事を得たり。保護者及兒童の

中には、八月末まで林間學園の繼續希望を申出てる者も少なからず、殊に熱心なる保護者は八月末まで繼續し、其繼續期間の監督は、保護者に於て分擔すとの申出もあり、「來年もくるから頼みます」とて先生に約束せる幾多の兒童も見受けたり。

要するに夏期に於て、斯る施設を保護者側が如何に期待せるかを推察する事を得るを以て、將來夏期に於ても、普通の通り保育を繼續する様計畫せんとす。

三、結 論

要之幼兒の健康を増進するには、園の環境と設備に應じ種々の方法手段があるが、要は自力の途を講じ、幼兒の足の發達に留意し、生土を踏み、自然に親ましむるため、幼兒の室内に止まる時間を極減し、室外生活の時間を多からしむる事が必要條件と云はざる可らず。然るに都市幼稚園の多くは此必要條件を充足する爲めには、其の施設なり、環境が餘りにも貧弱過ぎ、一方都市の狀勢は、近來著しき發達に伴ひ、幼兒の生活は日に／＼脅威を受けつゝあり、

斯る狀態の許にありて、幼兒の健康増進を望むことは、教育者たる御互共の努力と苦心を以て、難事中の難事と云はざる可らず。

故に今日の都市幼稚園は、幼稚園本來の使命の外に、都市の發展につれ環境の變化に伴ひ、日に／＼脅されつゝある欠陥を補足するため、都市幼稚園教育者たる吾々共は、日夜思を茲に致し、頭を絞り、渾身の努力と勇氣を以て、保育事業に當らざる可らず。

最近我京都市では、日影幼稚園、下總幼稚園等が率先して自動車を購入し、園児を郊外に送り出し、自然に親む機會を與へつゝある事は、都市幼兒の保健増進上偉大なる効果を現すことは、火を見るより明なりと信ず。

從來夏期に於て、一般に休暇も實施し以て、保育を中絶の狀態に陥らしむることは、教育上甚だ遺憾とする處なり左りとて都市幼稚園一般の情勢を考察するに、夏期の保育を續續することは、頗る困難なる事情にあるを以て、將來都市幼稚園にては、交通機關の利用を研究し、幼兒郊外保育の發達を企圖することが、幼兒保健増進上最も効果ある

方法たるのみならず、都市に於ける夏期保育の實施を容易ならしむる唯一の方策と考ふ、然るに之が實現の如何は一に當事者たる吾々共の努力如何にあることを覺悟せざる可らず、殊に近來一般に夏期林間學校の開催、年々増加の傾向にあることは、邦家の爲め喜ばしき現象なり、將來斯る企の益々普及し以て、夏期保育の進展を切望して止まざる次第である。

附記

永觀堂幼稚園に於ける保育及保健衛生に關しては左の諸氏の指導を仰ぎ居れり。

保育顧問	文學博士	小西重直
園醫	醫學博士	富田精
同女	醫學博士	富田房子
齒科顧問	府立醫大教授 醫學博士	本永七三郎
保健顧問	岡部小兒科 副院長	岡部理吉

青虫を中心としての 幼児の生活と誘導の實際

岡山 石 原 安 子

一、緒 言

幼児は之を取り圍む自然界に對して無關心であられないことは今更申し述べる迄ありません。この傾向こそ、よりよく活きんとする生の慾求に基く尊い萌芽であり、知識の收得も基づく所はこの傾向であり、尊い發見も發明も文化の進展も總べての究知心、究理心、道徳もこの傾向に基いて生れる、實に尊いものであります。而も手當り次第雜多のものについて聞きたがり五月蠅がられる迄しつこく尋ねる、かくも強烈な而も多方面に對する慾求に對し、出来る限りの手段を講じてこの尊い萌芽を培ひ養はねばなりません。かゝる自然の要求を満足させる所に、私共の活動の

天地があり苦心もあり、門外の人のとても味はふことの出来ぬ愉快さもあるのだと存じます。かゝる考へから保育に當つての或期間の幼児の生活を記載して及ばない所考への誤つてゐる所等萬般の方面に亘つて御指導を戴きたいと存じます。

二、實 際

觀察期間 自五月十七日 至六月五日 幼兒數 六十一名

動機 談話の内容に出でし、キャベツ畑より

場所 本校敷地内農園（園舎の約二〇米餘の地點）

材料 青虫

目的 害虫驅除の名のもとに取り扱はれてゐる青虫を

繼續的觀察によりその生育の有様を知らしめ殘忍

性を柔らげ生物愛護の念を養ひたい

準備 鉢にキヤベツを植えしもの及びそれを被ふに用

ふ金網一箇

五月四日 水曜日 晴

用意された小箱十箇、誰に？ と言つてゐる間に早や御大將の子供等の手に渡つてしまふ。カンランを踏まないやうに、の注意のもとに青虫探しは始められた。中には氣味惡がつてさわらない「どんなにもないよ」と人の持つてゐるをツーツトさわらしてゐるから元氣が出たものか、そろ／＼と青虫取りに、それでも、まだ氣味惡がるのは「こゝに居るよ」……と探して廻る。いつの間にか小箱は御大將の手からはなれて他の小さい幼児に……「箱から逃げる」「よう這ふなあ」と感心して見てゐる。「どんなに大きくなるでせう？」……「こんなに」……「もつと」……等と幼児の想像は大きく／＼なる「飼つて見ませうか？」「うん」……螢籠の小さいのへ入れてやる。（想像してた程幼児は興味を起さなかつた）

五月十六日 月曜日 晴

午後詔へてゐた飼育網が出来上つて來た。子供達と一緒に……とは思つたが一人でキヤベツを掘つて來る。

五月十七日 火曜日 晴

一時中止狀態に置かれてゐた青虫も、其のお家の完成と共に幼児の目がそこに向けられ出した。「えゝなあ……先生どこで拵らへてもうゝたの」……「いつ出來たん……」等とさわつて見乍ら金網に對する質問「先生！ 蚯蚓がつたん、これもかつてやらうえ、青虫がつたん、てんとう虫が」……等と次から次へと葉に止つてゐる虫、土からはひ出した虫と、飼育器の中はう／＼と雜居生活だ。キヤベツのおいしさうな所から食べてゆく青虫はお部屋のお蠶様と同じやうだと幼児達は喜ぶ。

五月十九日 木曜日 曇

「先生！ 〳〵」と一幼児が何か大變なことでも起きたのかばた／＼と遊んでゐる私の所へ駆てきた「どうしたの？」「ありやゝない／＼青虫が」……私も何いふことなしに、びつくりして小さなグループのまゝ駆け出す青虫の所へ

……「あれだけちつとも葉を食べんの」(幼児の指差した一匹の青虫を見れば、じつとうづくまつて蛹へと變化しつゝあつた)「どうしたんでせう?」「死んどん?」「さあねどうかしら」……と言ひ乍ら手を入れて、ソートつゝいて見れば、もくゝと體を動かして見て又じつとする「やつぱり寝とつたんなあ……」やつと安心して元の遊びへ。

五月二十日 金曜日 晴

昨日の青虫が完全に蛹になつてゐた。幼兒には解らないらしい。只不思議なと見えて次々に登園するお友達同志で「何んぢやらう」と互ひに不思議がつてゐた(青虫が減ると一緒に變な物が増えて来る、どうやら幼兒達には青虫がなつて行く事が解つてきたらしい、が、まだ不思議なやうだ)五月二十四日 火曜日 晴

「ありやーなに?」「遂々蛹について聞き出した」「ありやーなあー蛹いふもの」……「青虫がなつたんなー」「どうして解る?」「ふぢやあーけーど」……(はつきりと言ひ現すことは出来ない然し解つてはゐる)「どうして蛹になつたりしたんでせう?」「しらん」「しらん」「お話してあ

げませうか」……(簡單に神様のお話と連絡を取つて話して聞かす)「今度は何になるでせう……皆で何になるかよく見てませうね」……

五月三十一日 月曜日 晴

白いものが網の中に見えた、おや? と思つてゐる間にその側に來てゐた幼兒達は口々に、てふてふだく、早くから來てゐても知らなかつた子供に「てふてふが居るんよ」……と知らせに行く兒「見ゑりやーせんが……先生! 見せてくれんの……」見ようとして互ひに争ひが起る「てふてふがびつくりしたらいけませんからそーつと見ませうね」(と言へば小さな體をゆすり合して見てくれた)時々思ひ出したやうに蝶が金網に止る音のみ只一様に蝶へ。目も、心も。てふてふゝと歌つてゆく兒、子供自身蝶になりまして飛び廻る、あかざの葉の蝶も出来る、一つ出来れば早くそれを持つて、てふてふゝと走つてゆく、それかと思へばなんば出来たん? 一つ二つ……と出来上つたのを數へて喜んでゐる……「今日は」と言つ行けば、そのまゝ蝶屋さんごつこに、一つ十錢? へんや一つ一錢ぞな製作に

没頭する兒賣、店の主人氣取りに應答する幼兒、お金にと石ころを拾ひ集める幼兒、拾つてあげる兒、それかと思へばまだ、金網の側からはなしようともしない幼兒……（と蝶を中心の遊びは私と言ふ者がどこに居るのやら居ないのやら解らないぐらひだつた）青い蛹は白い蝶々に茶色の蛹は黄色い蝶々に幼兒達の目は意外なところに伸びてき行ます（然し之はまだしつかりとした事は申せません、もつとく／＼多くの蛹について研究しなければなりません）

數日後に全部の蛹が蝶になりました。雨が降りさうになれば、てふてふが雨にぬれたら可愛相なからお部屋へ入れてやらうだの、もつとお花を入れてやらう（全部が蛹になつた時に鉢のキャベツを取り去り、なでしこのお花とかへて置いた（次から次へとお花が咲いていつて長持ちのよくするものを選びしため）等と花を取つて來て入れてやつたりする「餘り長いこと幼稚園へ置いとかないで蝶々さんを歸らしてやりませう」と言へば一時にぼつとはなしてやればよささうなものを各兒が一匹づつ持ち（この時には外に飛んでゐた蝶も連れて來て一緒に網に入れてゐたのでとて澤山だつた）一二の三、ではつとはなしたのでお部屋中

が蝶でひらひら「あ！ 私のてふてふがあそこへ行つた」（一寸もてば早自分の所有物だとして壁繪等に止まれば）蝶々が繪のお花をほんとお花かと思つて行つた等と喜ぶ（明日は皆でお花を澤山拵らへて壁へ貼つてをきませう、そしたらてふてふが喜ばあ／＼なあ／＼等と明日の遊びのお約束も出来る）此のやうに觀察は唯の觀察だけで終りにならず動作に歌に手技にと、どこ迄もく／＼伸びて行かねばならないのではないかと思はれます。これから少し取り扱ひの上で感じました事を列記さして戴きませう。

三、結　　び

（一）蝶をはなしてやる時に記すのを忘れてゐましたが幼兒が「てふてふはたんぼ、などによろ止るが幼稚園にはないな」と言つてゐるのを聞いたものですから園兒が歸つた後直にたんぼ、を掘つて來て植えてをけば翌日蝶の止つてゐるゐないにかゝわらず非常に喜び後日散歩の時一幼兒は、れんげ草の小株を持ち歸りて「今度は幼稚園にたんぼ、やれんげ草が澤山生えるなあ」と楽しさうに話／＼合つてゐた。このやうに幼兒は自然物自然現象等に對して注意を拂

ひ一本一草、一匹の虫にも生命のある事を信じて之を取り扱つてゐることを教へられるのであります。残忍性もこの事をしつかり心に持つて幼児を見てゐれば善化して行けるのだなと領かすにはゐられません。

(二) 幼児の觀察中の態度につきて

幼児が熱心に觀察してゐる時にうつかり話しかければ非常に叱られる時があります。それは幼児が悪いのではなく、こちらが悪いのでありますから其の時には今幼児は何を見てるか……只それを知つてゐてそのまゝに知らぬ顔でゐればよいと思ひます（又は上手にそのグループに這入り込んで行くかです）。然し熱心な觀察の後には必ず質問が生れるものでありますから其の時を逃さないやうに談話なり又その事實を簡単に話してその疑問を解決へ導いてやる所に使命があるのではないでせうか。幼児は觀察しようと思へば他の人のことなんか考へないでどこ迄もその物の眞疑をたしかめねば止まない性質がありますが、それも一寸の注意でその氣分（見ようたしかめよう）をこはさずして行動、性情の善化と言ふことが出来るのではないでせうか。

(三) 害虫驅除について

農村故に尙更大切だが又その害虫を飼育して見る、そこに言ふに言はれぬ性情の教育をなすことが出来るのではないでせうか。

(四) 畑の觀察物を園内に引き入れたについて

自然のまゝに幼児に觀察さすのも一つの方法だが又自然のまゝの形をこはさないやうにしてそのまゝ取つて來て幼児の觀察しよいやうにしてやるのも一方法ではないでせうか。

(五) 飼育器について

a 鉢にしつかりと金網の被ひを取りつけてしまふ豫定だつたのですが園長先生のどこへでもばつとその金網を伏せば又そこで觀察さすことが出来やしないかとの言葉に從がひ金網に四本足をつけました。

b 同じ觀察物でも始めに螢籠へ入れたのでは餘り幼児も興味を起さなかつたが器物の變化（一寸した注意）により幼児の青虫に對する折角の觀察態度を逃さずに捕へきることが出来たことは、明かに幼児の觀察に對する態度も一寸の不注意で常に逃してゐるのではないかと叫ばれてゐるやうな氣がします。

京 阪 二 日

— 關 西 聯 合 保 育 會 —

倉 橋 惣 三

十月十七日京都公會堂で開かれた關西聯合保育會は、その盛大、その活氣、いつも乍ら、斯界のために意を強うさせられた。午前の中に、談話題の意見發表と、研究發表とを併せ聽かんことを樂しみとした私にとつては、研究發表が午後にまわされて、それを聽くの暇もなく、惜しくも午後一時富士特急の客となつたことを、まことに心のこりとしたが、以て議事内容の豊富さを見るべしである。しかも私としては、談話題の意見發表を聽いたゞけでも、五市の保育會に對して十分敬意を感じしむるに足りた。蓋し斯の種の總集會に於ては、個人的研究に發表の機會の與へらることも素より大切であるが、同一宿題に對する構成各團體の綜合的討究こそ、他の集會に於て得られ難き貴重の價值を有するものであつて、三市聯合保育會の當時から、此の

談話題討議を以て此の會の中心主體として、少くも余一人は考へ、また重視してゐたからである。今回も亦、一づゝ適切な問題が提出せられて居るを見、それに對し、各保育會が、いづれ劣らぬ代表辯士を壇上に送つて、その熟議研究の結果を發表せしめられたのを傾聽し、深き満足感に浸されたのであつた。たゞ、此の會を敬愛するものとして慾の上の慾をいへば、各市保育會がその會内に於ける最近の實施、研究、計畫、方針、希望等に關する總括的報告を會各自のものゝ發表せられ、互に參考とせられては如何んといふことである。勿論、從來も其の方針であつたかとも聞いてはゐるが、それが、もつと徹底せられて、一々の問題に對する眞に綜合的な解決の集成が出来たらと、そんなことが——特に今年の會でといふのでなく、——いつも

考へられるのである。但し、其の問題に關し、特に報告すべき意見なり實施なりをその意見の所有者、實施の當事者をして語らしむるは最も適切必要のことであるが、その人をして、保育會の代表報告を併せ行はしめることが出来るであらうと思ふ。尤も、個人的座談會の一形式として、も、談話題意見發表に多くの興味と利益とがあつて、それでも十分結構のことであるが、問題の種類によつて、兩者並び行はれるも亦妙であらう。更に、提出さるゝ問題そのものを、各市保育會の隨意提出によるものゝみならず、總會そのものゝ研究議題として、各年一二の中心問題が必ず登録せらるゝも亦、意義と活氣とを添ふるものであるまいか。而して、かういふことは、臨時的大會などでは實行上容易でないが、此の五市聯合保育會の如き、連續的に構成單位を同じくする組織内に於てこそ、初めて可能にして當然なる有機的仕事であると思ふのである。

x

x

x

その前日午前は、大阪中央放送局から日曜日の朝の講演として「世相と家庭教育」と題して放送し、午後は、大阪

童話教育研究會講演會に於て、同會の標語「子どもと語る」の提供者として、其の題目に就きて講演し、やゝ更けて京都に入つたが、寢もやらず都ホテルのバルコニーで眺めあかした、京の秋の月の夢みるやうな美しさは、胸苦しい程の思ひに恍惚たらしめた。更に、翌早曉、大塚喜一君に迎へられて、ホテルの裏山から、朝霧深き東山に沿ふて、杉の木立の露したみちを、知恩院裏から祇園の方へ降りて見た小半時の散歩は、まことにゆふべの夢のつゞきにふさわしい京の朝であつた。

それから聯合保育會に臨んだのである。

初冬の保育衛生

廣 瀬 興

小兒は成人に比して急速の發育を成すものであるが、その發育の過程には、やはり種々の影響を受け、幾分の遅速のあるものである。例へば、季節もその一つであつて、これを發育の年内動搖と稱してゐる。即ち一般に身長は春より夏にかけて最も急速に増加し、秋に少い。反對に、體重は秋を中心として最も増加し、春に遅いのである。冬期は從つて、身長體重其他發育全般に亘つて、最も消極的の時期と云ふことが出来る。寒さのために生活が不活發の時である。榮養上から考へても、肉類等に於ける蛋白質、穀類等の主成分である含水炭素は充分であるとしても、吾々身體の生理的作用の調和をはかつて、各種の疾病を豫防し、發育を促進せしむるに最も大切であるヴキタミン殊に新鮮な野菜、果實より攝取せねばならぬヴキタミンCの不足勝ちの孝節である。又、日光はその力最も弱く、しかも曇天

の日多く、紫外線の量も僅少である。從つて、骨、齒牙其他の發育に關係あるヴキタミンDの不足を來し、感冒に侵かされ易く、又、甚しきときは、佝僂病と稱する骨の發育障礙を招來し、顫門閉鎖不全（おどりこの癒合せるもの）セムシ、下肢の疆曲（O字脚、X字脚）齒牙發生遅れ、咀嚼面は鋸齒狀を呈す。又、寒氣のため充分體內溫發生を必要とする故に自然に脂肪分を要求する。溫發生が不充分で細胞の新陳代謝が不活發であると身體の血液循環の不充分の局所例へば指尖、趾、耳朵等に凍傷を來す様にもなる。冬期は室内を閉し、火鉢、ストーブ等にて暖をとるため室内の空氣が乾燥し汚染されてゐる。かゝる時急に室外の寒冷な異つた空氣を吸入すると、呼吸器道の粘膜を刺激して、咽喉カタル、氣管支カタル甚しきときは肺炎を誘發するのである。

故に、冬期に於ては勿論、初冬の頃より特に、榮養、日光、換氣の三事項に付き、前述の如き點に重點を置かねばならない。(本誌七月號保育衛生の項参照)

營養は勿論一般原則に従つて、各種の成分を含有するものを攝取せしめるのは當然であるが、殊に、虚弱の幼児は脂肪の多きもの、肉、魚等を與へ、必要なればビタミンA補給のために、肝油を與へることも効果がある。殊に幼稚園に於て大勢に一時に服用せしめるときは誠に簡單である。この場合、あらかじめ、體重を測定し、便通の具合を一應檢して後、コーヒースプーン一杯より始め、何等便通にも變化なきときは一週後に二杯に増量し、最寒に至つて、約三杯として、四五月頃まで持續するのが普通の用法である。肝油に耐えられず下痢を來し易き幼児には、ビタミンA製劑(理研ビタミンA、ガロステリン等)を與へるがよいが、肝油の方が効は多い様である。肝油は餘り精製せぬ方がよい。日本藥局方の肝油は價安く効有りと云はれてゐる。

若し下痢が一時的なれば再び少量より始めたがよい。又

年長兒なれば、小牛の肝臟料理、所謂もつ料理も有効であるが新しい材料を求めるのが困難である。

新鮮の野菜は特に注意して與へねばならぬ。青菜類のおしたし、大根オロシ、一夜漬、各種の野菜サラダ等である。林檎、ミカン等果物を勉めて與へるがよい。ビタミンCの不足は、壞血病の原因となるが、かゝる重症とならずも高度の貧血を招來するであらふ。晝食辨當の際一同に大根オロシや、野菜サラダを共同補給せしめることは効果的である。

ビタミンDは前述の如く、骨、齒牙の發育、感冒の豫防に缺くべからざる養素であるが、これを主として含有する食品は極めて少數であつて、普通最も多いと云はれてゐるのは、鰵、鰵、鰵肝臟等である、いはしつめ入りは幼兒の好物であらふ。ビタミンDは紫外線の皮膚照射によつて身體内に化生せられる故に、佝僂病の傾向のあるものには、人工太陽燈の照射が必要である。同様に、日光浴も其他いろいろの意味で重要であるから、是非、一般にその方法を充分、心得て置かねばならぬ。冬期は都會の如き塵

埃の多い所では、日光も弱いため、紫外線を途中で吸収せられ、地上では、極めて微量で、増してや、ガラス越しなどは何等の効もないと云ふ人があるが、實驗上は、直射日光なれば、都會でも、案外の効のあるものである。普通のガラスでは殆んど紫外線は吸収されて透過せない。近來はヴェネターガラス、ヴェネオールガラス等の特種の紫外線通過ガラスもある。併し少しく高價であり、紫外線も直射の場合と比ぶべくもない。余は近頃セロファンと稱する紙を使用してゐる。これは近來、包裝紙として使用せられゐる透明セルロイド様の薄い紙にして、日常誰れも承知のもので木材を酸で處置した人絹類似のものであるが、燃焼し難く防濕性を有してゐる。このセロファン紙は、紫外透過力はヴェネターガラス等の數倍で、價も極めて安く、三尺平方約十二三錢であり、耐久力も相當である。紙の代りに障子に糊で張つて窓にはめ、日光を室内に射入せしめ、日光浴を行ふのであつて、完全に外氣の寒さを防ぐことが出来る。セロファン紙は濕氣によつて伸縮があるから、張るときに少し緩かに張る方がよろしい。

日光浴の效果は單に紫外線に射されるのみにあらずして新鮮な外氣に觸れることが重要であることを忘れてはならない。直射日光浴の最も効のある理が判るであらう。嚴寒の候でも、南向の窓に風の流れざる様、工夫して日光を皮膚に直射せしめ、日蔭の肌は毛布等にて包み、決して寒氣に當らざる様にすれば、殆んど全冬期中、晴天なれば、外氣療法と直射日光浴とを兼用し得るものである。日向と日蔭とは數十度の温度の差のあるもので直射の部は相當の高温（昨年嚴寒二月中旬晴天東京郊外、窓開放、華氏五十度以上）である。若し、風強く窓の開放出來ざるときは前述のセロファン障子を使用するがよい。幼稚園、託兒所等にも簡単に取付られる。

裸體の直射日光浴は身體の一小部分を短時間より始めて漸次全身を長時間に及ぶのが原則である。種々の方式があるが、一式を知得すれば大體の要領が判る。次式はその一例であつて身體を前後兩面四區部分として一日五分より始め漸次増量し、十五日目より前面三十分背面三十分一時間の浴射を行ふのである。

浴前に室外空氣浴十分間、冷水コップ一杯飲用、脱衣乾燥摩擦、帽子、日光浴（浴中眩暈や多量の發汗あれば中止）乾布摩擦又は冷水摩擦、着衣、空氣浴二十分、室内三十分靜臥、檢温の順序である。

順序	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
照射時(分)				5	5	10	10	15	15	20	20	25	25	30
全上	5	5	10	10	15	15	20	20	25	25	30			
全上				5	5	10	10	15	15	20	20	25	25	30
全上	5	5	10	10	15	15	20	20	25	25	30			

勿論、以上はその個人、小兒等に依つて幾分變更すべきで、幼稚園等に於ては上衣を脱せしめたり、腕出シャツ一枚としたり、或はパンツ一枚の裸體としたり種々加減すべき

きで、要は無風なときの直射日光なれば決して感冒に侵されることはない。セロファン窓を設備することもよいことである。以上で日光浴の要領は判ることと思ふ。

次は、換氣であるが暖い室内より急に寒冷な屋外に出すことはよろしくない、出来ればその室内に徐々に外氣を通過せしめ、室内にて外氣に順れしめて後、始めて、戸外に出させるがよい。積極的には常に戸外に遊ばしめて、温度の變化に順應する習慣をつけることが肝要である。冬期に多い感冒、氣管支カタル、肺炎の豫防は晩秋の頃より注意せねばならぬ。又、凍傷（しもやけ）の如きものすら、この頃より手足を清潔にし、毎夜手足を熱湯（糠浴）に浴せしめ、後、よく乾燥せしめる、肝油等を與へ全身療法を行ふことが必要である。已に發生しては容易に治癒し難いもので、しもやけは全身病であると思はねばならない。

要するに初冬に於ては成るべく積極的に、戸外に遊ぶ習慣、薄衣の習慣、榮養上の家庭への注意を成して、冬期の消極的生活の敝を防ぎ、幼兒の發育を出来るだけ助長すべき期である。

およばれの日(クリスマス遊び)

東京市麴町幼稚園 柴 田 み ど り

幼い子等の楽しみにしてゐる、クリスマスも直ぐ参ります。大きな袋を背負つて赤い服をきたやさしいサンタクロースのお爺さんは子等の世界にはなくてはならぬものになりました。それにつけて幼稚園でも宗教的な立場から離れて行事として取入れてゐる處も澤山見受けますので冬のおよばれ會に取扱つてみることに致しました。小さい主人公が他の組の大勢のお友達をおよびするのですから一ヶ月も前からいろいろと準備を整へなければなりませんので、本月號にのせていたゞく事に致しました。試みていたゞくましたら喜しく存知ます。

草案 保姆が話しつゝ會を進行させます。

サンタクロース (保姆が簡単な扮装をすれば尙よろしいと思ひます)

「こんにちは。私は今雪組や花組のみなさんをそれはく

面白い處へつれて行つて上げませうと思つてあの寒いお國から來ました。みなさま私の名前を良く知つてゐらつしやるでせう。そう「サンタクロース」みんな知つてゐらつしやいますね。では私は何をしに毎年クリスマスになると來るのでせう。そうそれも良く知つてゐらつしやいますね。私はお父様やお母様や先生のおつしやる事を良くきく元氣のある子供達によい御褒美を持つて來るのですね。でも今日は異なります。みんなを面白いところへつれて行きませう。みなさんのお家には皆さんが幼稚園にゐらつしやつた後にはどなたがお留守居してゐるのでせう。お母様、お祖母さま、お女中、赤ちゃん、そう、でも未だあります。それはみんなの大事なおもちゃや繪本でせう。汽車だの電車だの積木だのクレヨンだのお帳面だのお人形さんがお机の上や戸棚の中で靜かに皆さんのお歸りを待つてゐるのでせう。

でもね、今日は異ひますよ。今日は玩具の國のクリスマスです。ですから今に私のところへ皆來ますよ、そこで私が皆さんをそうつと其の玩具の國のクリスマスにおつれしやうと思ふのです。皆さん行きますか。それならその前に二つだけお約束をさせよう。一つは皆おはなしをしないで静かに見てゐること、もう一つは私がほら明けませうと云ふまで眼をつむつてゐる事、出來ますか。そう、それならゆきせう。

さあ眼をつむつて下さい一、二、三、

静かな曲しばらく。この間に幕があれば開きます、なければ舞臺のいろ／＼な飾り、椅子など手早くならべます。

さあ着きました眼をあけませう。おや未だ早かつたのでせうか、誰も來てゐませんよ、ではしばらく待つてゐませう、年をとるとくたぶれますね、ドツコイショ。

あゝ來ました／＼、さあ靜かにしてゐませうね。

「兵隊さんが來る様です、やつぱり兵隊さんは一番元氣です」

兵隊「サンタクロースのお爺さん今日は。クリスマスお目出度う」

サンタ「やあお目出度うよく早く來られましたね一番ですよ」

兵隊「えゝ僕の家の坊ちゃんそれは元氣で幼稚園にもいつも一番早くゆきますから僕もそれに負けないやうに早く來たのですよお爺さん」

サンタ「それはよい坊ちゃんですね、どれ／＼しばらくまつてゐらつしやいもう皆も來るでせう」

お人形「サンタクロースのお爺さん今日はクリスマスお目出度う」

サンタ「よく來ましたねお人形さんのお着物はいつも美しいのですね」

お人形「えゝ私の八枝子さんは私をいつも／＼大事にしてくださいがつて下さるからよごれたりこわれたりしないで嬉しいのよお爺さん」

サンタ「いゝお嬢さんですね。あゝこんどは大勢來たやうですよ」

電車に乗つて出場（紐の中に入つて来る）キュービー。風。

羽子板。毬。首ふり人影。犬。等。

電車「どなたも終點、おもちやの國です」

一同下車整列して

一同「サンタクロースのおぢいさん今日は。クリスマスお目出度う御座います」

サンタ「みんなそろつてよく來ましたね。お目出度う、もうだいぶそろいましたね」

電車「僕が来る時未だ汽車さんが電車通りでグズ／＼してゐました」

自動車「ブウ／＼。あゝ重かつたさあつきました」

（水兵、汽車降りる）

自動車、水兵、汽車一緒に「サンタクロースのお爺さん今日は、クリスマスお目出度う」

サンタ「お目出度う。汽車さんはどうして自分でこなかつたのです」

汽車「あのね」今朝僕の家の春夫さんが僕をひどくなげたので車が一つどつかへなくなつてしまつたのです、僕だけ

らなか／＼歩けなくつてやつと自動車さんと來たの」

サンタ「それはかわいそうでしたね。よし／＼では私が直ぐなほして上げませう」（足をさすつて上げる）

汽車「もうなほつてしまつたお爺さんありがたう」

サンタ「水兵さんはどうしたのですか」

水兵「僕、玩具戸棚の戸がなか／＼開かなくつて出られなかつたのですよお爺さん」

サンタ「それは大變でしたね。でもみんなよく來られました、さあこれからクリスマスの會を始めませう。

今日は昔々二千年も前にユダヤと云ふ國にイエズス様と云ふ神様の御子が世界中の人を幸にしやうと思つてお生れになつたお目出度い日なのでみんなでお祝ひするのですがみんなはいつも／＼お坊ちゃんやお嬢様のお友達になつて時には亂暴になげられたり、お庭に忘ればなしにされたり鼠にかじられたりして随分泣き度い様な時にもよく我慢して楽しく遊んで上げるのですから、今日はその御褒美にこゝろして一日お遊び致しませう、でもあんまりこわされもしないで皆元氣なお顔をみせて下つたので私は嬉しくて／＼

たまりませんよ」

兵隊「僕たちも嬉しくてたまりません。お爺さんは先から僕たちの歌やお遊戯がお好きだから、又しておみせしませう」

一同「それがいゝゝ始めませう」

1 汽車と電車 うた 五人位

(歌詞) チン／＼電車さん、又はガ

ツタンポツポビーポツポ

2 キュビーさん ゆうぎ 五人位

ドント波

3 首ふり人形 ゆうぎ 五人位

私のすきな首ふり人形

4 水 兵 律動 四人位

5 お 人 形 ゆうぎ 四人位

私の人形はよい人形

6 凧と手毬 うた 四人位

トン／＼てまり

7 兵 隊 うた 四人位

8 玩具のマーチ ゆうぎ 全體

やつと／＼くり出した

サンタ(拍手)、みんなお手上ですね。よく出来ました、私は皆のうたやゆうぎが何より好きです、それでは御褒美を上げませう」

(おみやげを配布する)

一同「サンタクロースのお爺さんありがたう」

サンタ「もう幼稚園から坊ちやんやお嬢ちやんが家へお歸りになる頃ですからお歸りにしませう、又來年元氣でゐらつしやい、私も坊ちやんやお嬢さんにみなさんを大事にする様にお願しておきませう」

一同「おちいさんさよなら」

電車「みんな僕に乗つてゐらつしやい」

汽車「僕にも乗つて下さい」

自動車「僕が一番早いのですよ」

(三つに分れて紐の中に入る)

一同うた「さよなら／＼」

静かな曲 幕をとぢる

サンタ「あゝみんな歸つてしまひましたね、もうお家へ着いて知らん顔してお机の上やお戸棚の中に座つてゐるでせう。皆さんにおねがひします、どうぞあのかわいい玩具を大事にして下さい。それはそうと玩具のゆうぎやうたも大變お上手でしたが、みんなみなさんが幼稚園で憶えたのをみてゐたんですね、ではきつと皆の方がもうとお上手なことを思ひますが一つづゝしてみせて下さい」

（お客様組、豫め約束しておき各組一二づゝ歌又は遊戲を舞臺に出て演ずる）

サンタ「やつぱりお上手でした。どうもありがたう御座いました。それでは皆さんにも御褒美を上げませう、

（おみやげを配る）

では又來年のクリスマスにお會ひませう、もう直ぐお正月、みんなお年を一つづゝいたゞくので喜しいでせう、では元氣にお正月のうたを歌つてさよならしませう」

お客様一同

うた（もういくつ寝るとお正月のうた）

終り

當日までの仕事（すべての仕事を子供と相談しつゝ子供の手で出来る事で子供自身にさせたいと思ひます）

一、相談

○およばれの日の意味をよく話すこと

○草案を面白く興味が湧く様に良く話すこと

○みんなの好きな持つてゐる玩具を發表させる

○役割 自分のなりたい玩具をきめる

○お客様に差上るおみやげを考へる

二、準備

各々玩具の扮装（子供自身で作る様にする）

○キュービーさん……紙に描き切ぬいたお面

○汽車、電車、自動車、風、羽子板、毬、犬等……白ボ

ール又は畫用紙に大きく描き切ぬき紐にて胸の前に釣る様に……又は額にその畫を冠の様にしてつける

○兵隊さん……帽子、肩章、鐵砲、厚紙で作る

○首ふり人形……クレールプペーパー又は布にて三角帽子を作り尖に鈴をつける

○人形……家庭からほんとうの人形を持參する

おみやげのいろ／＼（どれでもよろしいのを選ぶ）

○くつ下にお菓子（フレーバル館の織紙應用のもの）

○黒猫。黒犬の袋にお菓子……ラシヤ紙とクレープペーパー

○小箱にお菓子……ラシヤ紙

○小さな家にサンタクロース……書用紙等

部屋の裝飾

○クリスマスツリー

○輪つなぎ、萬國旗、紙テープ、飾り等

練習

○部分的にしばらく続ける。玩具の餘興の歌や遊戲はいつもしてゐるので總て新しく教へるのではない様、今までのおさらい位にとどめておきたい

○總練習

言葉を憶へること、この通りでなくても子供が意味を理解してゐれば少々異つてもかまわないやうに

二三回すれば大丈夫です

當日

○舞臺 お客様の席との區別があればよろしい程度で幕があつてもなくてもかまはないこと、椅子を十個位後にならべ先に來た玩具がかかる後から來た玩具はその前に座る。サンタクロースは舞臺の右側の端にいつもゐる事

○玩具等、全部始まるまで衝立などの後にかくれてゐる事
以上

注意

サンタクロースの他に進行係の保姆がいつも子供の出る事に注意をいたします。

未だしてみません。案だけです。で時間は確といたしませんが一時間位ですむと思ひます、たりないところは補つて下さいませ。（七、一一、一二）

製作を中心とした保育

千葉縣女子師範
學校附屬幼稚園

渡 邊 き よ

編輯部からのお話で、十一月、十二月向きの製作を中心とした遊びを書けとの事で、お受けはいたしましたものゝ期限は迫つて居ります上に、學校全體の運動會とか競技會とか、二學期は行事多く多忙な爲に充分のべさせて載く事が出来ませんで申譯も御座いませんが、(一)現在着手しつつあるもので十一月半ばまで繼續するもの、(二)十一月半ばより十二月半ばまでの計畫について簡單にかべさせて載きます。

(一) 現在着手中のもの

いつも二學期を迎へる前にあれもこれもと各方面を心配し過ぎて、大した結界になり得ませんので、今年はあるべくあつさり考へる事にとめてまゐりました。九月、十月はなるべく戸外で過される様な豫定をたてましてその自然の遊びから製作へ引き入れ次に製作を主とした遊びにかへ

たいと思ひましたので、自然男女兒の作業も別になりました。

(1) 男兒

十月に入つてからは方々の小學校の運動熱は大したものでした、私の園でも十月に入つてから園兒のみの小運動會を二三回開き、又本校、附屬小學校、幼稚園の合同大運動會が去る二十三日に行はれました。幼兒等にとつて……ことに男兒にはうれしく日でした。昨年は全園兒こぞつて野球熱にうかされてしまひましたが、今年はかけつこ、リレー、其の他のものが盛んに行はれ精一ぱいの力で各幼兒が運動し合ひました。まだ十一月上旬までは市内小學校役所、會社等にも行はれますのでこれを見に行くのが何より楽しみらしいのです。そこで私はこの運動會を中心とした製作中心の遊びを一ヶ月間繼續させて見る事にいたしました

した。一寸期間が長すぎる様にも思はれましたが、戶外遊びが多く行はれるし人形芝居とか郊外保育とか一週間の内に三日位は全々製作にかゝれない日がありますので、丁度良い材料と思ひ、大運動會の一週間前から着手いたしました。現在では半まで仕事を完成し、毎日面白くながめ合つて居ります。仕事の順序を申し上げます

(一) 大運動會の一週間位前に幼児等と話し合ひをなし大運動會の翌日から製作にかゝる事を約束いたしました。其の間に私はすっかり材料をとゝのへ幼児には時々旗とか種目とかについて話し合つたり暗示を與へたりして置きました。

(二) 大運動會の翌日は一時間餘りの保育になりましたので着手を見合せ、翌日から着手いたしました。室内の一隅にボール紙の臺を置き(一番厚いボール紙全紙二枚をつなぎまわりに一寸角の枠を打ちつけて安定させました)まづ白チョークでラインを引かせてグラウンドを造りました。

(圓形だけは一寸下書きをしておきました)

(三) 粘土を用意して自由に人物を造らせました。出来

上つたものは、見物人がちらほら……會長席の方に校長先生、主事先生が椅子についたまゝ……其の他保護者席のお客様、遊戲をしてゐる女兒、五十米のコースをかけて行くもの四人、ころんでゐるもの一人、ピアノピアノの臺……等一回の製作としては期待した以上のうれしい結果を得ました。

(四) 萬國旗造り

これはグラウンドが出来上るとすぐかゝる豫定でありましたが粘土の用意を見た幼児等はすばやく人物製作にかゝつてしまひましたので翌日にまわしました。丁度具合よく實習生練習の板畫がオリムピックの競技會で各國の旗が立てゝありましたので大喜びで造りました。

(五) 第一回では保護者席にも一般見物人席にも又其他にも一ぱい空地がありましたので第二回、三回の粘土製作でこれを補充してまわりました。赤ちゃんをおぶつたお母さん、小僧さん、坐つた人、足をあげ出した人、拍手した人……等簡単に表現出来る幼児等が羨しくなりました。

(六) 粘土製作で出来上つた人物を二三日してから帽子

ユニホーム等のみ採色いたしました（繪具は八月文部省講習會の折使用いたしましたガリバーテンペラ繪具を使用して見ました）次第に賑はふ運動會場の有様を眺めて一同大喜びです。現在こゝまでは進み他組の幼児も始終かわる／＼見物に来て喜んでかへります。

（七） まだ後二三回かゝつて人物の補充をしたり又こわしたものと造りかへをしたり、テント張（來賓、保護者席の上に學校名を入れた大きなテントが張られてありましたから 出入口の裝飾、入退場のアーチ、まわりの柵等をめぐらして完成するので御座いますから、すつかり整つてカメラにおさめるのは丁度十一月の半ば過ぎになると思ひます。

反省

思ひ通りに無理なく進展してうれしゅう御座います。始めに私の計畫では、テント張り、ピアノ、柵等は保姆實習生の手でいたすつもりで御座いましたのに見事幼児の手で仕上りそうに御座います、いつもあまりに親切すぎて失敗に終る自分を又しても考へさせられました。幼児の中には製

作をしながらいろ／＼の話が出まして「野球をしてゐることにしやう」とか急に「戦争ごつこのところにしやう」「飛行機で見物人が來るといゝな」……等と申しますので仕事の都合でもう少し廣い臺をつくり野球のグラウンドも加へて見たいと思つて居りますが十一月下旬から次の計畫にうつらねばなりませんので如何したものかと考へ中で御座います。

(2) 女兒

まゝごと用の人形もすつかり衣裳がへが出來ましたので（保姆實習生の手により）幼児は十月初めからまゝごと用の食器を粘土製作で造つたり、毛糸刺繡でテーブル掛け、クツシヨン等の共同製作をしてまゐりました、それで大變刺繡を喜び糸を針に通す事や、糸止めなども一人でやれるものが出來て來ましたし自由畫も氣持よく書ける様になりましたのでこの機會に一人／＼の製作を記念する爲に手提袋を造つて、二學期の終りには各々の持物を入れて持つてかへる様これも約一ヶ月の繼續作業として計畫を立てました。

材料を申し上げますと、

一、表布Ⅱ男洋服衿しん（クリーム色）一ヤールを四人分

に織りました。

一、裏布Ⅱシンモス（クリーム色）約一尺強

一、毛糸Ⅱ中細のいろく

御参考までに費用を申し上げますならば大抵一人が十二三錢で出来上るかと思ひます（毛糸の使用量がまちまちではつきり申し上げられません）

右の材料で十月上旬から始め下書きに一日を取り（クレオンにて）其の後は自由に少しづつやつてまゐりました。

糸がからんだり、つれたりいたします者もありますので一回五、六人位しが目が通されませんで保姆實習生で相當忙しい思ひをいたしましたが只今では²/₃は出来上りました出来上つたものは保姆、實習生の手によつて裏をつけ完全な袋に仕上げて二學期の終りまでに間に合はせるつもりで御座います。

反省

氣候の良い時に室内に於て細い仕事をする事はどうかと

思ひましたが、大變幼兒が喜んでする事ではあり、三學期には又別の事も考へてありますのでうく決定着手いたして見ましたが案外具合よくまゐりまして、朝のうちまゝごとのお友達を待ち合せるとか、まゝごとを始める前、丁度顔も氣も揃つた時……等又は食事の後等に具合よく時を見付けて無理なく仕事が始めますのでやつと安心いたしました。三學期には他の製作の間に自由に皆の合作で大きな敷物でもつくり幼稚園の記念にしたいと考へて居ります。

以上簡單では御座いますが十一月下旬までの大體の御報告が終りましたので一寸筆を止める事にいたします。

（七、一〇、三〇）

×

×

×

×

十一月のぬりゑ

及川ふみ

紅葉のいろく

はんでん木や、ぶらたな、さくら、いてふ、もみぢなどの色とりどりの紅葉は實に美しいものです。籠をさげて園庭の落葉を拾ひあつめると自由畫の材料にも觀察の材料にもきりがみの材料にもぬりゑの材料にもなります。大い組の人たちには形をとつてあげなくても各自がその葉の特徴をあらはしておもひ／＼の形を畫いてそれに見たまゝの色をぬる事が出来ますからこの材料は小さい組の材料としておきませう。

圖のうち一番大いのがはんでん木であとはもみぢとさくらであります。色は實物を見てぬるのでありますが、もみぢは眞赤に、さくらはみどりとあかと黄色の染めわけに、はんでん木は黄と橙色の染めわけになれば美しくなります。

菊

これから十二月のはじめにかけてよい香りで咲き續けます。菊は花が長くもちますから一鉢保育室へおきますとこれも前の紅葉と同じくいろ／＼の材料となります。花びらの大きいものゝ他は幼児自身で形をとるのは少しむづかしいのですからこの材料は大い組にも小さい組にも使ひます。花の色は黄色で赤でもよいのですが黄色のときは眞中の心と同じになりますから心の黄色の上にうすく緑をぬるとよいと思ひます。

柿

今年は柿のなり年と見えて枝についた柿を幼稚園でも度々お母さん方からいたゞいていろ／＼と材料につかひました。橙色一色でぬるのはあまりやさしすぎますから、みぢくな黄色いところや、みどりののこつてゐるのなどまぢるとよいと思ひます。小さい組の材料によいと思ひます。

花壇

並に

花壇用草花年中行事

—(十一月)—

日比谷公園花壇掛 富

本

光

郎

苗床の霜除

今月中旬頃より次第に寒氣も加はり、降霜も激しくなつてくるので、秋蒔苗其他各種宿根草など温室、フレームに入れるもの以外は、霜除を造つてやらなければならない。

東京附近を標準とする模様花壇用のものなどは、耐寒性の強いものでも出来るだけ霜除をしてやるに越したことはない。それは霜除下で育てた方が株の大きがよく揃ふし、又幾分開花も早く、翌春花壇植付に當つて極めて使い易いからである。

霜除の方法は簡單で寫眞の如く、苗床の南側を開け外三方はふさぐ様にするので丸太を以て柱を立て竹を渡し、藁、苔、筵、菰等の類で屋根形に圍つてやるのである。

牡丹芍薬の植付

牡丹と芍薬とは秋を除いては絶対に植替の出来ないものにて、これは先月書かなければならないものであつたが今月に後れて筆者として誠に申譯ない次第である。

牡丹 牡丹はどういふものか一般に栽培困難と思はれて手を出す人が少い様であるが決してそういふものではなく左記の如き點に注意すれば極めて容易に培養出来るもので今植込んでおけば翌春よく開花し、二三年の後には立派な木となつてくれるものである。

植付適期 十月中旬より十一月下旬迄の間。

植付場所 成るべく強風の當らぬ、日當りのよい所、何れかと云へば朝日をよく受けて強い西日を受けぬ様な

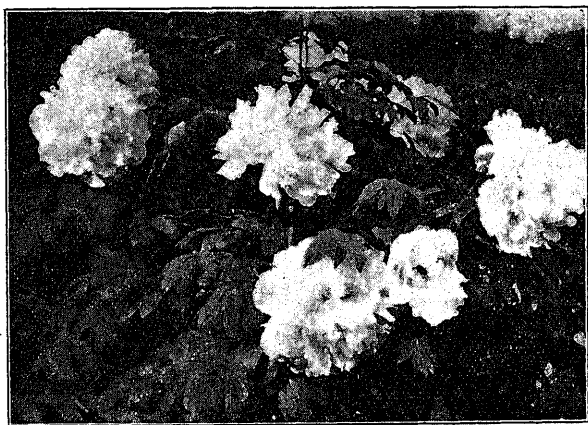
即ち東向又は東南向の場所。

適 質 土 多少粘質で排水のよい肥沃な土壌、列へば砂を相當含んだ粘質壤土。

植付方法 接木後三年目位のものを求め、株間は二尺五寸位とし、根はなるべく折つたり傷けぬ様にして、砧木と穂との接目が一―二寸埋まる位の深さに植付る。植付箇所は豫め深さ、巾共一尺二―三寸位の圓い孔を掘り底に腐つた堆肥油粕、木灰などを入れそれに少量の土を加へてよく掻き混ぜ、その上に根を据える様にする。

霜 除 植付は當初の冬は根際に藁、厩肥の如きものを敷くとか、或は出来るならば藁、菰等にて木全體包んでおく。

芍 藥 牡丹よりは、ずつと栽培もやさしく又手数を要さな



いもので、植付時期、場所、方法、肥料等大體牡丹に準じてよいのであるが、只牡丹よりも幾分軽い土を好むもので砂質壤土が最適である。

又肥料は馬糞の様な熱性のものを喜ぶものであるからかゝる性質のものを多量混じてやる方がよい。

近年は在來の日本種の外に花の豐麗な洋種のもの盛に輸入され可成栽培せられてゐる。

其 他 の 作 業

一、秋植球根類の植え後れたものは今月中に必ず植込をする。

一、寒さの烈しくなるに連れ模様花壇にも、境栽花壇にも枯れたり傷んだりするものが日々多くなつてくるから、花壇を見苦しくない様、拔取、

刈込、等其種類々々により夫々適當に整理しておく。

一、牡丹の剪定整枝を中下旬頃に行はなければならない。

園藝曆 (十一月 霜月)

大 岩 金

氣節 立冬 八日頃
小雪 廿三日頃

観 賞

晩秋の候となり自然は追々に冬枯に向つて参ります。畑には尙前月に引續いて丈夫なサルビヤ、レトニヤ、カツコウアザミ、スカートアリツサム、ダリーヤなどが咲いて居ります、又色とりどりの大菊、小菊などあまり手をかけなかつたにしては以外にも美事に咲きました。

木物としては山茶花が見頃でありました。

仕 事

一、霜除

第一回の移植を終へた苗もありますれば移植しないで苗床に播種したまゝで越冬させます苗もありませう、夫々に霜除をしてやらなければなりません、最も簡單なのは落葉や藁の類をそつと上に散らしてやることであり、又は只に霜柱を防ぐ程度のものですと紬殻を苗の間に敷いてやつてもよろしく更に丁寧に致しますならば棒、竹などで北を塞いで南を高く明けた骨組を作りこの上に筵、ヨシズ、炭俵等を以つて覆するのであります。

二、腐葉土の準備

種々の紅葉もやがて落葉するやうになりました、畑の隅の危険のないやうな又目障にならないやうな場所を選びまして木の葉の量に應じた穴を掘りませう、そして落葉も土も一所にこの穴に掃き込みます、時々には水もかけてやり

ます、こうして落葉のある丈を穴に詰め込みまして一番上には更に炭俵の如きものをのせ所々に石などで風に吹き飛ばされぬやう壓へておきます、そうして年末に二度二月頃になりまして今一度掘り出して積み替を致しますならば来る四月、五月の畑いじりまでには立派な腐葉土が出来てゐるのであります、この腐葉土こそは鉢作りに使つても又畑に入れても至極結構なものであります。

三、フレームの管理

本式略式を問はず今月の半ば頃からは障子の外に一枚通りの覆物が必要になつて参ります、苦を用ひれば防寒と防水とを兼ねますが簡単にすませるには簾の類を用ひてもよろしいのであります、覆物は年により地方によりまして厚薄一枚でない事は今更申すまでもない事であります。覆物の上は紐でとめておく事が必要であります。夜間はこのやうに致しまして出来る丈の保護を致しますが晝間はなるべく障子を明け充分に日光にも當て通風もよくしまして徒長を防いだり害蟲に對する抵抗力を強くしておかなければなりません。

四、ダリーヤやカンナの掘り上げ

一霜毎にダリーヤやカンナの基葉がいたんで参りますから地上二〇糎内外に切り球根を傷けないやうに掘り上げまして排水のよい暖所を選び九〇糎程の穴を掘りましてこの中に球を竝べ上に土盛りをしまして来る春まで貯藏しておくのであります。

グラデオラスも掘り上げまして是は陰干としましたならば箱又は袋に入れて貯へておけばよいのであります。

五、收穫

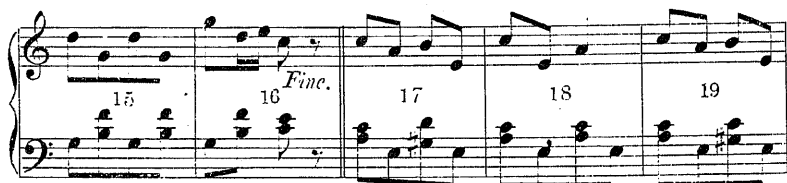
イ、蔬菜

料理菊の收穫はこの中旬頃を以つて終りをつげチョロギは今月が收穫始めとなりまして一月、二月頃まで引續いて掘りとられます。

ロ、實

いつの間に熟したのか高い枝から栗の實が落ちて参ります、銀杏拾ひも此頃の事でありまして大方の葉の落ちた後を眞赤に色彩する柿の實も一極目立つやうになりました。

わたしのすきな旗



わたしのすきな旗

土川五郎振

- 1 …… 両手の旗を體前で交叉して打つこゝ二回
- 2 …… 左足を後ろに引き右肩を少し下げ頭を右に傾け左前方を見て両手を前方より左右に少しく開く
- 3 …… 「1」に同じく體前にて打ち合ふこゝ二回
- 4 …… 右足を引き左肩を少し下げ頭を左に傾け右前方を見て両手を前方より左右に少しく開く
- 5 6 7 8 …… 両手を交るゝ頭上にあけつゝ右に八歩廻りて正面に復す（頭を後ろに顔を眞上に向けて）
- 9 10 …… 左向き両手を下げ樂に振りつゝスキップ四歩
- 11 12 …… 兩足を揃へ兩旗を頭上にあげ顔を上に向けて左右に振るこゝ四回
- 13 14 …… 廻れ右スキップ四歩
- 15 16 …… 「11 12」に同じく頭上に兩旗をあけて振る
- 17 …… 左右生向き合ひて右旗を出し右肩を下げ相手の旗と交叉せしむ 左旗は左後ろに伸ばす
- 18 …… 左旗を出し前の如く相手の旗と交叉す
- 19 20 …… 右手を取り合ひ（旗を持ちたるまゝ）左旗を左上に高くあげ顔を見合せつゝ廻はりて元の位置に歸る

21 22 ……「17 18」を同じく旗を合はす

23 24 ……左手を左手を取り右旗を右上にあけて逆に廻はる

1' 2' 3' ……曲の初めに返りて全生正面となり旗を兩側下方に下げ左足を出して樂に前後に軽く振る（前より）こゝ六回

4' ……メロディーの高くあがるこゝき兩旗を頭上にあけ兩脇を少しく左右に開く様に曲け兩旗先きが頭上で合ふ様にし

て上を見る

5' 6' 7' 8' ……其まゝスキップ四歩前進す

9' ……左足を引き兩旗を左へ流し右上を見る

10' ……右足を引き兩旗を右へ流し左上を見る

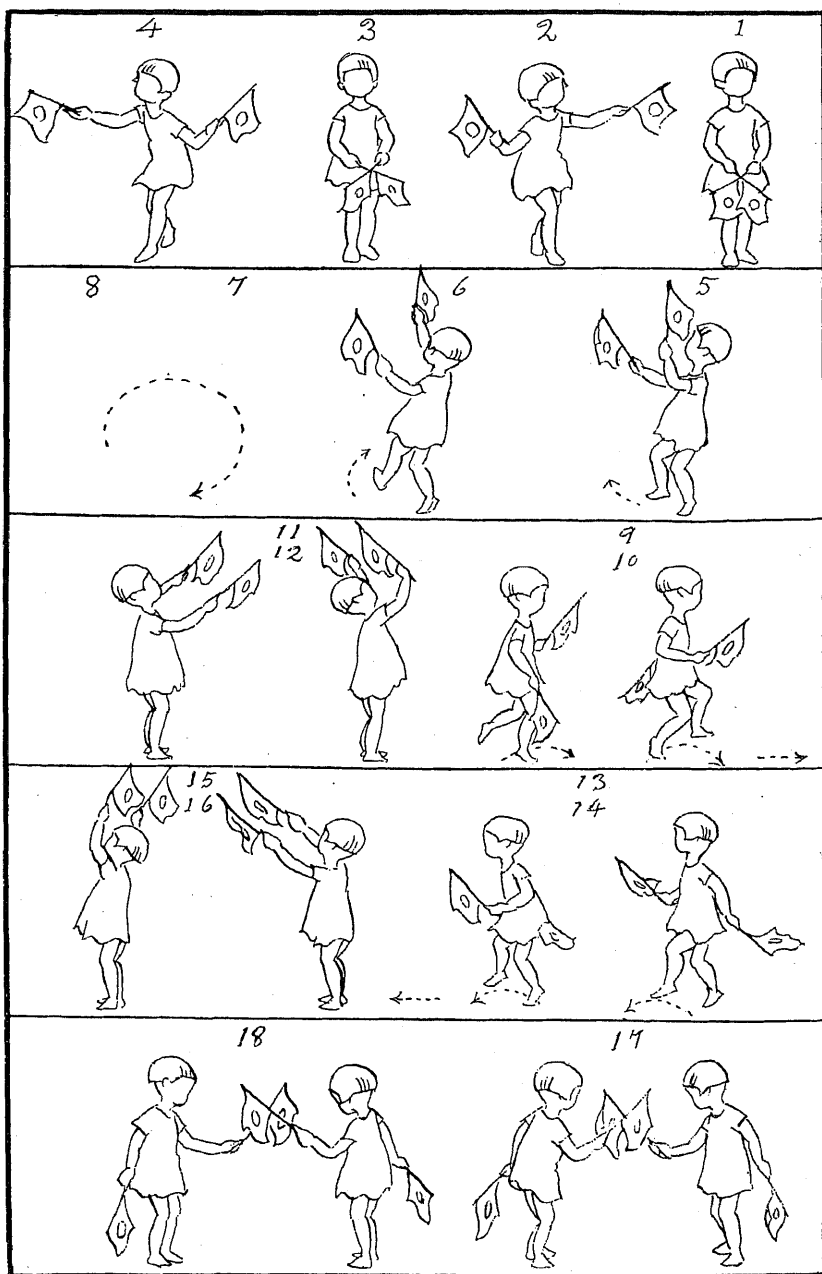
11' 12' ……「9' 10'」を繰返して二步下る

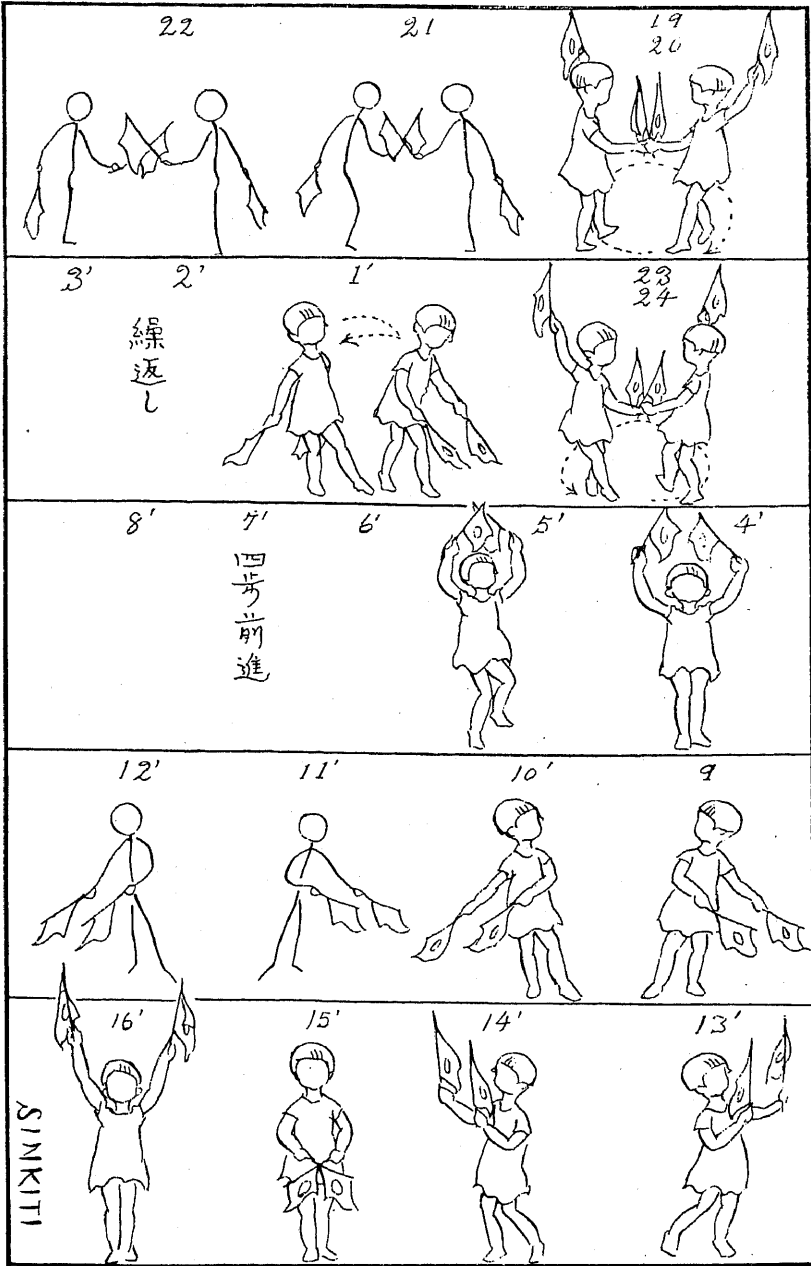
13' ……左足左へ右足をつける時 兩旗を顔の前に立てゝ左へ少しく送りそれを見る（右肩を少し下けて）

14' ……右足右へ左足をつける時 兩旗を少しく右方へ送りて見る

15' 16' ……體前にて兩旗を三回打ちて最後の音にて兩旗を高く頭上にあげ

○ Fine にて曲の終りゝす、數字は小節を表はし「」は繰返しの印





雜 錄

第二十三回 總會並びに 福島縣保育會

福島縣社會事業保育懇談會

總會は十月一、二日の兩日、喜多方幼稚園に於て左の通り開催された。

第一日 午前十時

1、喜多方幼稚園實地保育參觀

2、會議……午前十一時三十分

イ、開會挨拶 ロ、國歌合唱 ハ、會務報告

ニ、表彰

縣官訓辭 來賓祝辭 受賞者答辭

(晝食)

ホ、協議……午後一時

ヘ、談話

3、講習……午後二時

「幼児ノ人形芝居用具ノ作り方ト其實演方法」

講師 龜戶幼稚園長 山内勇仙先生

第二日 午前九時

1、喜多方道光託兒所參觀

2、會議……午前十時

イ、協議 ロ、談話 ハ、研究發表

3、町長招待會

(晝食)

4、講習

前日ノ續キ

閉會挨拶

建 議 題

一、幼稚園保母ニ對シ小學校教員ニ準ジ年功加俸ヲ給與サ

レン事ヲ其筋ニ建議スルコト

二本松幼稚園提出

一、私立保育事業ニ對シ國庫並ニ縣補助申請ノ件

若松保育研究會提出

協 議 題

一、勤續者表彰年限ニ就キ内容變更ノ件

説明ハ口上ニ依ル

若松保育研究會提出

研究題

一、凡ソ百人ヲ收容スル理想的園舎ノ設計ニ就キ平面圖並ニ之ガ建築法ニ關スル參考ニツキ承リタシ

若松幼稚園提出

談話題

一、各園ニ於ケル保育時數並ニ其ノ延長問題ニ關スルオ考承リタシ

郡山幼稚園提出

一、現今ノ時勢ガ如何ニ幼兒教育上ニ影響セシカ又此ノ時如何ナル方面ニ力ヲ注ガレシカ

(理由) 幼兒教育ハ幼稚園令ノ定ムル目的ニヨリテ行フモノ又

幼兒心身ノ發達ノ程度ニヨリテ施スベキモノニシテ敢テ時

勢ノ推移ニコダハリ變革等アルベキモノニアラザルベ

シト雖モ幼兒ノ實際生活ハ地上ヲ離ル、コト能ハザルモノ

又時勢ト全然沒交渉ナリ難キモノナルニヨリ此ノ非常時ト

稱セラルル時勢ヨリ何等カノ影響ヲ蒙リシモノアリト信ズ

コ、ニ於テ本問題ハ提出セラル、ニ至リタルモノナリ

郡山幼兒保育所提出

一、幼兒ニ經濟觀念ヲ養フ良法承リタシ

梁川幼稚園提出

一、幼兒保育時間ノ延長ヲ實施セラレツ、アラバ左記項目ニ依リ其ノ狀況承リタシ

1、延長時間幼兒取扱ノ實際

2、延長保育ヲ希望スル幼兒ノ歩合

白河幼稚園提出

研究發表

一、小學校ニ於ケル農繁期託兒所ニ就テ

郡山幼稚園長 松山 政治

一、立體切紙ニ就テ 高田町幼兒保育所

一、子供ノ噓言ト其ノ取扱ニツイテ

二本松幼稚園 玉木 ヒサ

尙、一日午後七時よりは喜多方町道光託兒所に左の通り託兒所關係者の懇談會あり

提出問題

一、協議事項

- 1、會合名稱制定の件
- 2、會則制定の件

○會則を覺書としての案

(一) 福島縣に於ける社會事業關係保育従業者が年一回縣保育會の開催を機として、事業の聯絡、並に向上發展、従業者の親和のため、一夜懇談するを以て主眼とす

(二) 縣保育會開催地に於ける事業従事員が座談會開催に關する一切の事務を執ること 以上

- 3、保育所職員待遇に關する件 高田町保育園提出

(註) 我が保姆には幼稚園保姆同様女學校卒業者には二、三ヶ年代用保姆として勤務せしものには無試験、免許下附の件等

- 4、保育所職員にも幼稚園同様、乗車割引證交付をその筋へ申請の件 同上提出

- 6、託兒事業の發展を期するため、巡回講演(映畫など

併用)を其筋に申請するの件 中村報徳保育園提出

二、談話題

- 1、農繁期託兒所に對し、我等の進出すべき範圍如何 郡山婦人會幼兒保育所提出

- 2、經營維持上に於ける御施設、拜承いたしたし 道光託兒所提出

- 3、日没までの保育につき、良法承りたし 中村報徳保育園提出

- 4、保姆の疲勞を調節する良法承りたし 郡山婦人會幼兒保育所提出

第三十九回關西聯合保育會

第三十九回關西聯合保育會は、十月十七日、京都市公會堂に於て開催、大阪、神戸、名古屋、岡山、京都の各市より來會せられたる會員實に一千餘名、傍聴者百五十名、頗る盛會だつた。

定刻より稍遅れて九時半一同着席、國歌合唱、京都市保育會副會長の開會の辭、府知事、市長の祝辭あり、會務報

告終つて左の順序により議事に入つた。

協 議 題

一、保姆ノ資格向上並ニ待遇改善ニ關シ左記事項ヲ其筋ニ建議スル事

1、幼稚園保姆ノ教養程度ヲ小學校本科正教員ト同等ナ

ラシムル事

2、幼稚園長及保姆ヲ視學等ニ任用スルノ途ヲ開ク事

3、幼稚園長及保姆ノ若干數ヲ奏任待遇ト爲スノ途ヲ開

ク事

4、幼稚園保姆ノ月俸額ヲ本科正教員ニ準ゼシムル事

5、幼稚園長及保姆ニ對シ年功加俸ヲ給スル事

6、恩給法第九十九條第二項ヲ削除セラレタキ事

京都市保育會提出

說 明 京都 加地彌一氏

意見發表 大阪 稻垣國三郎氏 神戸 望月 クニ氏

談 話 題

一、幼兒ニ對シ生物愛護ノ精神ヲ如何ニシケ養成サレツ、
アルカラ承リタシ 神戸市保育會提出

說 明 神戸 平戸八重

意見發表 大阪 秋房タツ氏 吉備 井上瀧野氏

名古屋 大河内林三郎氏 京都 甲斐マチ氏

一、自由畫取扱ヒ方ニツキ承ハリタシ

名古屋市保育會提出

說 明 名古屋 加藤かつ氏

意見發表 神戸 三輪きみ氏 大阪 高岸庄太郎氏

吉備 岩井絲野氏 京都 岡本靜子氏

一、幼稚園經營上基本トナルベキ調査事項如何

吉備保育會提出

說 明 吉備岡 政氏

意見發表 神戸 中谷久子氏 大阪 三橋節郎氏

名古屋 小池節氏 京都 西川千代氏

一、保育上保健増進ニツキ最モ効果アリト認メラル、特ニ
都市幼稚園ニ於テ夏期休暇中ノ施設ヲ承リタシ

大阪市保育會提出

說 明 大阪 國生駒治氏

意見發表 名古屋 山中たみ氏 神戸 樋口重乃氏

京都 牛島降則氏

一、幼兒ノ娯方ニ就キテ

京都市保育會提出

說明 京都 鹽崎多眞氏

意見發表 吉備 西岡千代氏 名古屋 沼波馥子氏

神戸 田中よう氏 大阪 三宅キクノ氏

講演

一、演題 兒童の早熟に就いて

京大文學部教授 文學博士 野上 俊夫氏

研究發表

一、幼兒ノ間食ニツキテ 大阪市保育會 宮武滿佐惠氏

一、幼兒ノ夢ト性格 吉備保育會 高原 寅氏

一、保育項目ノ内容ニツキテ 京都市保育會 中西 タミ氏

遊戲發表

一、汽車、通らんせ 京都市保育會

一、運道具遊び、お馬 名古屋市保育會

一、雛祭り、官女の舞、人形の踊 吉備保育會

一、かみなり、風船 神戸市保育會

一、小勇士、毯の遊び 大阪市保育會

以上、終つて京都市副會長の閉會の辭あり、次會開催地神戸市保育會代表者として謝辭あり。午後三時十分閉會。

人生のスタートに育る兒童の常識と解決

奈良女子高等
師範學校教授

桑野久任先生著

菊判洋裝函入
紙數六〇〇頁

定價
送料

四圓五拾錢
二十二錢

最新刊

育兒講話

父たる人、母たる人、教育者たる人の味讀すべき名著

第一章 育兒及兒童

第二章 胎兒

胎兒

第四章 乳兒

乳兒

第五章 幼兒及少年

幼兒及少年

一、育兒の定義
二、育兒の目的
三、育兒の方法
四、育兒の效果
五、育兒の責任
六、發育の時期
七、發育の諸人
八、發育の環境
九、兒童の寶
十、兒童の教育

一、胎兒の形態と
二、胎兒の發育
三、胎兒の生理
四、胎兒の確證
五、胎兒の養育
六、胎兒の胎動
七、胎兒の胎位
八、胎兒の胎心
九、胎兒の胎動
十、胎兒の胎位

一、その豫定日
二、誕生の準備
三、誕生(外九節)
四、乳兒の營養材料
五、乳兒の身體
六、乳兒の發育
七、乳兒の生理
八、乳兒の死亡率
九、乳兒の身體
十、乳兒の發育

一、乳兒の精神
二、乳兒の言語
三、乳兒の養育
四、乳兒の身體
五、乳兒の發育
六、乳兒の生理
七、乳兒の形態及
八、乳兒の發育
九、乳兒の生理
十、乳兒の形態及

東京高等師範學校教諭

廣井京太先生著

姿勢教育 (五版)

定價 三、〇〇
送料 一、二〇

(外數百項省く)

◇ 京東替振 行發店書黑目 區田神市京東 ◇
九〇八二 五町賀甲南

土川五郎氏還曆記念祝賀會

本年は土川五郎氏のために極めて喜びの多い年であります。先づ矍鑠たる健康を以て還曆を迎へらるゝと共に、教育に従事せられてから四十年、幼児教育に身を委ねられてから二十二年、遊戲の研究に志されてから二十年、初めてその創作を發表せられてから十五年、更に進んで、現に園長たる瑞穂幼稚園を開かれてから十年、現に所長たる東京昭和保姆養成所を設けられてから五年といふ、重ね／＼記念すべき年に當つて居ります。而して、其の間不斷の研究精進をつゞけられ、又常に全國に互つて廣く講習の指導にあたられ、斯の教育に對して貢獻せらるゝまゝこゝ實に至大いにはなければなりません。しかも、氏の將來は更に々々期待すべきもの多く、一層の研究活動きを以て益々斯界に寄與せらるべきことを信じ又祈りて已まぬものであります。乃ち氏の公私の知友及び門下相謀り、茲に、氏の誕生日たる十二月四日を期して記念祝賀の會を催し、同氏及御一家をお招きして、聊かお祝ひの心を表はすことに準備いたしました。就ては何卒貴下の御會同を得て此の會が一段の光りを添へ、お目出度き賑ひのいやが上にも盛大なり得るやう、切にお願ひ申上ぐる次第であります。

土川五郎氏還曆記念祝賀會準備委員代表

昭和七年十一月

倉 橋 惣 三

○發起人

(イロハ順)

巖谷小波	岩村清四郎	堀七藏	外山國彦	千葉ひで	及川ふみ
岡崎常太郎	小田島省三	和田實	田島眞治	中山晋平	野口雨情
久留島武彦	倉橋惣三	葛原齒	梁田貞	藤井利譽	小向きみ
小松耕輔	朝原梅一	齋藤金造	西條八十	櫻井美	岸邊福雄
北原白秋				其他二百二十餘氏	

○土川五郎氏還曆記念祝賀會次第

一、日時 十二月四日(日曜日)

一、會場 神田一ツ橋、帝國教育會館

(一) 童話、音樂、遊戲の會

一、午後一時より、大講堂

一、プログラム二面の通り

一、會員券金參拾錢

(二) 祝賀晚餐會

一、午後五時より、大食堂にて

一、會費 金 貳 圓

土川五郎氏還曆記念子ども會

日時 拾貳月四日(日)午後一時開會
會場 神田一ツ橋帝國教育會

(會員券金參拾錢)

プログラム

一 開會の辭
一 獨唱

倉橋惣三
平井英子

イ 砂山

北原白秋詩
中山晋平曲

伴奏 中山晋平

ロ 毬と殿様

西條八十詩
中山晋平曲

ハ アメフリ

北原白秋詩
中山晋平曲

一 童話

岸邊福雄

一 遊戯

瑞穂幼稚園兒有志

一 遊戯

東洋幼稚園兒有志

一 ソプラノ獨唱

武岡鶴代

伴奏 榊原直

イ カンタータ

パツハ曲

(キリスト降誕祭)

ロ 樹立

三木露風曲
山田耕作曲

ハ 唄

三木露風曲
山田耕作曲

一 遊戯

常盤幼稚園兒有志

一 遊戯

朝海幼稚園兒有志

一 遊戯

目白幼稚園兒有志

一 童話

久留島武彦

一 バリトン獨唱

外山國彦

一 童話

伴奏 榊原直

一 童話

イ 「ファウスト」中のカヴァチナ
山田耕作曲

一 遊戯

土川五郎氏御挨拶

一 合唱

イ 瑞穂幼稚園園歌
葛原貞曲

一 閉會の辭

ロ 園長さん
葛原貞曲

一 閉會の辭

ハ 山彦
葛原貞曲

和 田 實

土川五郎氏還曆記念祝賀會

本年は土川五郎氏のために極めて喜びの多い年であります。先づ矍鑠たる健康を以て還曆を迎へらるゝと共に、教育に従事せられてから四十年、幼児教育に身を委ねられてから二十二年、遊戲の研究に志されてから二十年、初めてその創作を發表せられてから十五年、更に進んで、現に園長たる瑞穂幼稚園を開かれてから十年、現に所長たる東京昭和保姆養成所を設けられてから五年といふ、重ね／＼記念すべき年に當つて居ります。而して、其の間不斷の研究精進をつゞけられ、又常に全國に互つて廣く講習の指導にあたられ、斯の教育に對して貢獻せらるゝまゝこゝ實に至大いにはなければなりません。しかも、氏の將來は更に々々期待すべきもの多く、一層の研究活動ミを以て益々斯界に寄與せらるべきことを信じ又祈りて已まぬものであります。乃ち氏の公私の知友及び門下相謀り、茲に、氏の誕生日たる十二月四日を期して記念祝賀の會を催し、同氏及御一家をお招きして、聊かお祝ひの心を表はすことに準備いたしました。就ては何卒貴下の御會同を得て此の會が一段の光りを添へ、お目出度き賑ひのいやが上にも盛大なり得るやう、切にお願ひ申上ぐる次第であります。

土川五郎氏還曆記念祝賀會準備委員代表

昭和七年十一月

倉 橋 惣 三

○發起人

(イロハ順)

巖谷 小波	岩村 清四郎	堀 七藏	外山 國彦	千葉 ひで	及川 ふみ
岡崎 常太郎	小田 島省三	和田 實	田島 眞治	中山 晋平	野口 雨情
久留島 武彦	倉橋 惣三	葛原 齒	梁田 貞	藤井 利譽	小向 きみ
小松 耕輔	朝原 梅一	齋藤 金造	西條 八十	櫻井 美	岸邊 福雄
北原 白秋					

其他二百二十餘氏

○土川五郎氏還曆記念祝賀會次第

一、日時 十二月四日(日曜日)

一、會場 神田一ツ橋、帝國教育會館

(一) 童話、音樂、遊戲の會

一、午後一時より、大講堂

一、プログラム二面の通り

一、會員券金參拾錢

(二) 祝賀晚餐會

一、午後五時より、大食堂にて

一、會費 金 貳 圓

土川五郎氏還曆記念子ども會

日時 拾貳月四日(日)午後一時開會
會場 神田一ツ橋帝國教育會

(會員券金參拾錢)

プログラム

一 開會の辭
一 獨唱

倉橋惣三
平井英子

イ 砂山

北原白秋詩
中山晋平曲

伴奏 中山晋平

ロ 毬と殿様

西條八十詩
中山晋平曲

ハ アメフリ

北原白秋詩
中山晋平曲

一 童話

岸邊福雄

一 遊戯

瑞穂幼稚園兒有志

一 遊戯

東洋幼稚園兒有志

一 ソプラノ獨唱

武岡鶴代

伴奏 榊原直

イ カンタータ

パツハ曲

(キリスト降誕祭)

ロ 樹立

三木露風曲
山田耕作曲

ハ 唄

三木露風曲
山田耕作曲

一 遊戯

一 遊戯

一 遊戯

一 童話

一 バリトン獨唱

イ 「ファウスト」中のカヴァチナ

ロ 風車

グノ曲
山田耕作曲

一 土川五郎氏御挨拶

一 童話

一 遊戯

一 合唱

イ 瑞穂幼稚園園歌

ロ 園長さん

ハ 山彦

一 閉會の辭

常盤幼稚園兒有志

朝海幼稚園兒有志

目白幼稚園兒有志

久留島武彦

外山國彦

伴奏 榊原直

巖谷小波

昭和保姆養成所生徒

葛原貞曲
梁田貞曲

葛原貞曲
小松耕輔曲

葛原貞曲
梁田貞曲

昭和保姆養成所生徒

和田實

定 規 文 注

告 稟

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
 - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
 - 一、寄稿竝に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に
 - 本誌の購讀及び廣告に關する通信竝に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
- ## 日 本 幼 稚 園 協 會
- 一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）
 - 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 - 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

告 廣

特等面一頁	金參拾圓	二等面一頁	金貳拾圓
一等面一頁	金貳拾五圓	一頁以下御斷	

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

製 複 許 不 載 轉 禁

編輯兼發行所 倉 橋 惣 三
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
印刷者 柴 山 則 常
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 合 資 杏 林 舍

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
昭和七年十一月十二日印刷納本
昭和七年十一月十五日發行
幼兒の教育 第三十二卷 第十一號

クリスマス・年末・お正月！

嬉しい季節を迎へる手技用品、今から拵へて楽しく待ちませう。

◇ストッキング用織紙——強靱の純日本紙の織紙、之を互に組み織紙の畚下に作つて贈物を入れます。

五十組 金七十錢

◇星——銀紙 $\frac{1}{4}$ 、金紙 $\frac{1}{4}$ の割に交ぜて打抜いた星の大小二種、装飾用として最も重要。

一箱 金三十錢

◇柵の葉——クリスマス装飾の必要品、濃緑とヒヨ色をまぜて打抜き、圓い實を添へたもの

一箱 金三十錢

◇お誕生祝ひの鯛——意義あるお誕生日を祝ふ爲に厚紙製鯛型の美しいカード、裏面に「あなたのお誕生日をお祝ひします」とあり、頗る好評のカード。

厚紙 金一圓八十錢

◇後藤連繋紙——菊の花、柵、楓の三種が各種の色で抜いてあり、名稱の如く連繋して装飾用モールとします。

一箱 金三十錢

◇國旗まじりの丸・提灯まじりの丸——提灯、國旗、日の丸を打抜いたものを貼つて装飾にいたします。何れも百組入一箱。

一箱 金十八錢

◇カレンダー樹星形——厚紙の銀紙入櫃の星形、寫眞臺紙、カレンダー臺紙となる。

五十枚 金二圓五十錢

◇羽子板材料——桐白木の軽い羽子板、之にお細工意匠をして用ゐます。

十本 金一圓

◇風の材料——幼兒のお細工、純和紙と竹の骨とで一組。

五十枚分 金一圓

◇獨樂用材料——幼兒自身が製作し意匠して廻はすもの。

五十個分 金一圓

◇カルタ——子供カルタ(三〇錢)、

桃太郎カルタ(二五錢) 健康カルタ(二五錢)等



館ルベールフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・内館會育教・田神・京東 店 本
番八三一六局本話電 三町野平・區東・阪大 店 支

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
一月一十 十五日發行

昭和七年十一月十二日印刷納本
昭和七年十一月十五日發行

定價三十五錢